愛國婦人會機關

愛國婦人

每月五日二十日發行

定價一ヶ月金六錢 半年分參拾六錢 全國無郵送料
廣告料一行六拾錢
本號全部禁轉載
東京麹町區（牛ヶ淵公園）
發行所 愛國婦人會發行所
發行兼印刷人 山澤俊夫
編輯人 手島益雄

電話番町五百二十番

愛國婦人會の目的は遺族及癈兵を救護するにあり

◎本號には愛國婦人會主唱者奥村五百子氏の肖像と筆蹟を寫眞版附錄とす

社說

奥村女史の逝去

往來を通行する何人を捕へて、其歷史を聞くも、一人として有益ならざるはなし。何人か其生活の經驗、困難、成功、失敗にして、味ふべく傳ふべきものなからんや。坂の下に車を待てる立ん坊にも、亦聞くべきの歷史あり、況んや國家の大變動多事多難の間に處せる六十二年の長生涯をや。

勤王、佐幕、白刄、鮮血、謀議、使命、暗殺、民權、選擧、戰爭、渡海、彈丸硝雨、萬歲、維新前より今日に至る日本の歷史は、要するに男子の歷史なり。婦人は飯を焚き、子を寢かすエバ傳來の平穩無事なる常務に寢起するもの、多難多事なる國家の奮鬪的生活と何等の關繫あらんや。婦人にして傳ふべきものあらんか、そは花見、戀愛、結婚の歷史にあらずんば、如何に老媼として其お伽譚が兒孫を喜ばしめしかの歷史なり、新日本の奮鬪的生活、要するに婦人には屋內に在て雨を聽くが如きのみ。斯くて生れ、斯くて年取り、斯くて墳墓に入る、これ婦人一般の運命なり。

奥村女史は然らず、今の娘ならば尙母に甘たれ、夜一人は便所にさへ往けざる十七歲の、婦人の身を以て、結髮に野袴を穿ち、朱鞘の大小を橫へて、長州藩に使ひせしを、手始めとして、男兒と伍して國事に奔走し、家に勤王の志士を庇ひ、民權論に熱中し、選擧運動に壯夫の隊長と仰がれ、選擧干涉に抗して、大に民黨の爲に奮鬪せる等、有髯男子をして後に瞠若たらしむるものあり。而して其婦人たるが爲に、男子の得て成す能はざりし事を成就せしもの、また少からざるなり。愛國婦人會あつて始めて奥村女史あるにあらず、奥村女史は維新前よりの奥村女史なり。然れども女史には一層大なる使命を果さしむべく運命は時節の到來を待ち居たるなり。

奥村氏の先は、豐臣氏の時代に入韓して、韓人の間に布敎し、太閤征韓の際、韓國の事情地理を諮詢せられ、功を以て肥前唐津に寺院を建立せられたるものなり。祖先は子孫を作る、女史は明治七年頃より朝鮮に志を立て、密に政府當局者と謀りて、國事に益せしこと尠からず、又金玉均、朴泳孝等亡命の士を庇護して、其便を計りしこと一再ならず。其兄奥村圓心師遠祖が力を韓國の布敎に盡せる史蹟を回想し、老軀を提げて入韓し、江原道寂寞の地に移住して、一面に佛敎を廣め、一面に農工の業を韓人に敎へしが、女史其老年にして、助け少きを感じ、自ら渡韓して、其勞を分てり、爾來日韓の間を往來して、社會の公益を謀るを念とせしが、三十三年義和團の變起るに及び、本願寺の囑を帶びて、北淸に我が軍人を慰問し、其艱苦慘憺の狀を目擊して、性來の熱情默止する能はず、之を天下に訴へて、こゝに愛國婦人會は起れるなり。

初め女史の此會を發起し、故近衞公爵の助力を仰げるや所期は十萬の會員を得んとするにありき、十萬の會員、當時は如何に其所期の無謀過大にして、恰も貧民が岩崎三井たらんとするが如きものと、或は傍觀者には思はれたるならん、冷笑もされたるべし。而して見よ所期の十萬は愚か、二十萬が三十萬となり、四十萬となり、十萬は端したの、五十餘萬の會員が嘘にはあらず、現に日本に在りて日露戰爭當時は勿論、今も直接間接に軍人遺族及び癈兵救護の爲めに盡し居るにあらずや。是れ蓋し戰爭といふ時勢と、總裁閑院宮妃殿下會長岩倉公爵夫人を始め、役員及び會員諸氏の誠意努力に由ると雖も抑もまた其首唱者たる女史の熱誠が、其原頭の一大動力たることは、何人も疑はざる所なり。人は男女に限らず大した事をするものなり。旅順の要塞を粉碎し、港內の堅艦を轟沈せしめたる巨砲の發射は、導火線たる白金の熾熱に始まる。奥村女史渾身の熱誠は、他を同一溫度に高めざれば止まず、其『半襟一掛』の題目を唱へて、南船北馬軍人の爲に同情の絕叫をなすや、淚に次ぐに血を以てし爲に病を釀すも意とせず、其遂に京都大學病院に運ばれて、最後の臥床に橫はるや、『愛國婦人會』の一言を遺して、如字的に會のために僵れたり。婦人に仕事は出來ぬといふは嘘なり、婦人は人を感動するの力なしといふは間違なり、奥村女史を見よ、女史は獨り愛國婦人會に生くるのみならず、其精神に於て長へに日本婦人の間に生くるものなり、一り婦人のみならず、男子もまた感奮興起する所なくんばあらず。

然れども人誰れか缺陷なからん、『完全無缺なる』贊辭は、要するに空語にして、人を評する深切の言にあらず。奥村女史の言動は往々常規を逸し、奇矯に馳せて、婦人婉靜の德に缺くる所ありといはる。元來女史は、男勝りにして、其言動の如きも、半は其生來に由ると雖も、また其欝勃たる熱誠の、他人の緩漫無意氣地を見るに堪へずして、發して奇矯の態怒罵の聲となりしなり。固より假裝にあらずして、誠心の發動なり、故に人、見て怒らず聞て憤らず、多くの人の氣兼ねして行き惱める事をも、女史は唯一言一動に由りて容易く解決進行せり。此の如くにして女史は天下の通り者として、如何なる人の前にも、其態度を保つを得しなり。これ婦人らしからずとの非難ありとも、他人の得て摸倣する能はざる女史の一德なり。

然らば女史は無禮講の仕續けなる男性的の一方かと云ふに決して然らず、其尊敬せる人、若くは一事を託せる者に對しては、腰を折り辭を卑ふせること、尋常以上なりき、時に社會普通の禮節に缺ぐる所ありたれども、決して傲慢の人にあらず、無邪氣の粗野はあり、一點傲慢の氣なし。至誠なる者は傲慢なる能はず、傲慢は嘘僞なる者の附け景氣なればなり。たとへ男性的の所ありしと雖も、要するに婦人は婦人なり。我等は奥村女史に於て、また女性、しかも優秀なる女性を認めずんばあらず。女史は嘗て人の妻として、家を治め、又母として、兒女を敎養したり、禮儀作法もよく承知し居りて、若き女の無作法は八釜敷言ひ、又家政者第一の條件たる經濟の觀念に富みて、箸一本も無益に捨てず捨てしめず、而も憐れなる者を見ては、衣服を脫して與ふるを辭せざりしなり。

女子一通りの技藝は心得、加ふるに漢學の素養あり、和歌俳諧にも指を染めたり、即ち女史は婦人の婦人たる生活は一として之を經過せざるなく、又婦人たるの嗜み素養に於て五分の隙もなかりし人なり、充分婦人の修業を積んで、而して後之れより解脫して洒々落々の人となりしなり、於是乎この女史を見る。含蓄なくして、唯其外形を模する者の、何ぞ能く女史たるを得んや。女史は夫れ禪家の所謂徹底せる者乎。女史を有する一り愛國婦人會の譽れのみならず、また一國婦人の誇りなりといふべし。而も今や乃ち亡し、女史の颯爽たる風姿は長へに見るべからず、哀哉。然れども女史は決して死せず、死せるは其肉のみ、其精神は我が國婦人の骨髓に浸入して、長へに活動するものなり。我か國尙未決の婦人問題多し、婦人の本領、家庭社會に於ける婦人の位置、敎育、慈善、矯風、感化の事業、勞働の問題等婦人の運命を支配し、婦人の奮勵努力を要すべき事は山の如く橫はれるなり。奥村女史は獨り愛國婦人會に必要なりしのみならず、あらゆる婦人事業に於て必要なり、今日は各方面に於て奥村女史を要するの時なり、唯偉人を感嘆し景慕するは、猫の如く何等の感嘆景慕を爲さゞるに勝る、然れどもこれを力とし、信念として、誓て其跡を追はんと努むるに劣るや萬々なり。知らず我が國の婦人は其孰れを撰ばんとするものぞ、女史は墳墓に在て常に同性の行動を視つつあるなり、其事の何たるを問はず願くは女史の精神を以て行ふべし、これ眞に女史を追悼して、其冥福を祈る所以なり。

佐藤正 校閱
小笠原長生 立案　愛國婦人會編纂

愛國婦人會主唱者 奥村五百子詳傳

本會の主唱者たる奥村五百子女史の傳記は後世に傳へて世を益する所多かるへきを思ひ豫て同女史に關する材料を蒐集保管せられ居る小笠原子爵に協議し同氏の立案に由り今回本會に於て不遠詳傳を編纂發行せんとす此段豫告す

愛國婦人會

論叢

婦人と經濟思想

文學士　三輪田元道

普通經濟と云へば只金子の使用法を云ふのだとばかり思ふて居る婦人が澤山あるやうであるが、夫れは甚だ間違つたことである、學理的の言葉で云ふと經濟學は富の生産、分配、交換、消費、を論ずる科學であるから、單に金子を使用せぬ、即ち節儉するを以て唯一の目的とするは甚だ消極的で、素より經濟の意義を能く了解し居らぬのである。

人欲を滿たす有形無形の物を富と云ひ、此富を増加さするものを生産と云ふのである、人として此世に生れた以上は、男女を問はず生産的觀念を有して居らねば亡國の民たるを脱れぬ、併し生産は人生の目的でない、生産は只其方法である、即ち生産して後に人類世界を幸福ならしむる爲に消費するが生産の目的である、故に彼の投機的に金を儲くるの人、又は不正手段を敢てする實業家の如き、或は世の所謂守錢奴と稱さるゝ輩は、只生産を以て唯一の目的となす者で、經濟の根本主義を誤まつて居る者である。

有形物の生産に付て其基源となるものは農、漁、山林、鑛山、の如き天然物へ人が勞働を加へ、始めて生産を來たすので生産は天然と勞力なくしては決して得られぬ物である、次に無形の生産とはどんなものかと云へば、例令ばゼームスワットが蒸氣を發明したる如き即ちそれで、此れは精神的勞働に屬するものである、其他學者となり或は高尙なる人格を養ひ、以て社會の道德を高めることに從事するのも皆精神的勞働によりて得たる無形の生産物である、今日世界の工業界がワットの發明したる蒸氣力を使用することに依つて其生産力の増加しつゝあることは、實に驚くべきものである。

要する人生の生産的生活とは無爲に過さぬことを意味して居る、歐米の貴婦人が電車または汽車中にても能く讀書したり、編物をして居るは、無爲の生活を恥辱とする彼國の良習慣である、然るに日本人は概して活働を卑しめる傾がある、殊に婦人間には一層此弊が甚しい、即ち一身を人任せにして、無爲に生活し得らるべき境遇にある人を貴婦人と稱して居るが斯る事は國家の爲めに由々しき大事件である、戰後今日の日本國は二十億萬の負債があり、國民は老若男女の別なく平均すれば一人に四圓以上の負擔があるのである、故に國民は大なる奮發を以て生産に志さねばならぬ、これを怠るに於ては例令戰爭には勝つても國家の安寧を保つことが出來ぬと云ふ、實に危急な秋に際して居るのである。

其處で自分の考へては、日本婦人の經濟思想が積極的に活働することを要求するのである、歷史を繙くと、往古には畏多くも、皇后の御身を以つて御手づから桑を摘み給ふて蠶業の奬勵に勉めさせられた例もあるから、兎に角庭園の廣き家では養雞其他果物、野菜、草花の如きものを栽培するが宜いと思ふ、これは直接に手を下さずとも、婦人が田園生活に趣味を有して來るだけでも生産上に甚だ有益なことである、尙ほこれにも増さり、簡單にして實行し易きことは、中流以上の家庭に於て召使の數を減ずることてある、例令資産が充分にあつて餘裕多き家ても、自分で成し得ることは自ら勞働して、召使の數を減ずることは取りも直さず生産的行爲である、斯くして其費用は例令小額でも、他の有益なる方面に消費するやうに勉むれば、夫れは最も健全なる經濟思想となるのである、故に貴婦人社會より率先してこれが實行を試みる時は、下これに習ふて遂に國內に善習慣を作り出すことが甚だ容易であるかと思ふ、健全なる家庭あつて始めて健全なる國家があるのである、故に家庭の主權者たる主婦は大に反省して活眼を開き、積極的態度を以て有形無形に生産的生活をなすべきことが目下の急務である。

女子の權利

新渡戸鞠子

女子の權利とは如何なるものを云ふかと問はれることがありますが、私はこの答をするに甚だ苦むで居ります、私の考へては、權利とは政治其他社會のことに關與するものにあつて、別に女子の權利と云つてはないものかと思ひます、一體權利とは實力に伴ふ結果でありますから、女子と雖も實力さへあれば、社會に於て權利を獲得することが出來るかと思つて居ります、故に人の妻となりて家庭にある時は、自ら其の主婦たるの權利を主張しませんでも、敎育の程度、または人格の如何に依つては、隨分と家庭內に於て重んぜられて來るやうになります、乃ち自ら求めんでも實力さへあれば自然と權利が出來て來るのであります。

歐米の女子には權利ありと云ふ、若してれありとすれば、それは敎育の程度に基因することゝ思ひます、然るに日本今日の女子は、妻としてもまた母としても、實際に敎育が不足して居ります、勿論男子と同等に高等の學問を專修するの必要は、ありませんが、少くとも普通の敎育を受けて、大體で宜しいから、社會の總ての方面に通じて居らなければなりません、所で現時の日本に於ける主婦は何うであるかと觀ると、妻としては敎育の程度が餘りに夫と懸隔して居て、それが爲めに互の精神の結合と云ふものが出來ません、その結合の出來ぬ結果男子は家庭にあつて慰安を得ることが出來ませんので、落莫を感じた末は自然他に遊び所を見附け出すと云ふやうなことになつて參り、溫かなるべき家庭は冷かになりはせぬかと思はれます、否な冷かになりつゝあるのであります、また母としては、その子供の小學校に通ふ時代までは、平等に話し對手となることが出來ますが、既に長じて中學時代となりますと、母の學問的智識は到底子供に及ばぬやうになり、自然母として子供に精神上の敎育を施すことの出來ぬのが多いやうてあります、これて以て人の妻たり人の母たりと云ふことが出來ませうか。

斯くの如く日本現時の女子には未だ妻たり、母たるの責任を充分に盡し得る丈けの敎育の施されてないのが多數でありますから、自然男子に尊敬さるゝところの女子が少いのでありませう、日本の男子は十四五歲になりますと、モウ女なんかと云つて、女子を重んぜぬ傾向があります、否な傾向どころてない、この觀念は深く腦裡に泌み込むで居るのであります、願くは早くこの觀念を男子から取り去るやうにしたいものであります。

併し今日の女學生が、妻たり母たるの時代になつたならば、一般の女子の敎育の度も進んでまゐり、同時に立派な女子が輩出して、社會から漸々に重く認められて來るやうになるであらうと思ひます。

人格の認識

矢島楫子

自分は、人は如何にして生活すべきかと云ふ問題に就いて、多年苦みましたが、基督敎を信じてより二十餘年を經て漸くこれが了かりました。

財産があつて、仕事なにかはしなくても結構に其日〳〵を送つて行く人があります、斯かる人を指して宜い身分だとは誰もが能く云ふことてありますが、飽食暖衣、唯だ暖かく衣て食らふと云ふことのみが人間の能事てはありません、食て生きて居ると云ふ丈けのことなら、動物にも出來る、否な動物は皆なそれてあります、その動物と同じやうなことをしてそれて人間と云はれませうか、自分は斯かる人を以て人格ありと認むることは出來ないのであります。

苟くも人類——萬物の靈長であると云はれる人間が動物同樣の生活をして、それて滿足するとは抑も間違つたことてはありませんか、食て生きて居るばかりて宜いものなら、別に人間なる立派な名詞も何にも要らないてはありませんか、然るにこゝに人間として生存する以上は、動物に異つたる超然たるところがなくてはなりません、食ふて生きて居るのが人間の目的てはない、人間は人間として働かねばならぬ、これが人間の目的て萬物の長たる所以てあります。

近頃は良妻賢母と云ふ說を能く聞きますが、この良妻賢母もまた人間屈竟の目的てはありません、人間は社會人類の爲めに働くのが目的てありますから良妻賢母を作るために女子に高等の敎育を施すなど云つて、良妻賢母を作くるための敎育をするのは過つて居るかと思ひます、社會人類の爲めに働くところの高尙な敎育さへ施せば、自然其處から良妻も賢母も出てまゐります、要するに、良妻も賢母も、社會生活の一部分てありますから、吾れ〳〵人類は、人としての天職を全うするために大いに社會の爲めに働かねばなりません、斯くして始めて人格の尊むべきが知れるのであります。

▲奧村刀自の御位を賜はりしを　　評議員　中山幸子

國をおもふ心のまことあらはれて
位の山にのほる君かな

▲奧村刀自の寫眞を見てよめる

うつしゑを見れば淚のうかふかな
返らぬ旅の人とおもへば

▲奧村女史のみまかりたまふをかなしみて　　評議員　有島幸子

國のため君か盡せし眞心は
世々のかゝみとなりにける哉

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

小説

夏　　小川未明

頃はちやうど日露戰爭の當時である。未開な山中にも、愁への雲がかゝつてゐて、眞夏の時分であつたのに、野中の、女工場では晝夜の分ちなく頻りと機を織つて、白木綿を製造し小さな、村の病院では、看護婦が戰地に送る繃帶の布や、頭巾や、病兵の着る衣物などを縫うてゐた、自分は照付ける、日光を眞受けに、野中の小道をすた／＼と歩いて村に差しかゝつて、藥を賣らうとやつて來ると、白い姿の看護婦が、正午の休憩時と見えて、病院の硝子窓を開けて、茫然と雲もない熱さうな野原を遠く見渡して、自分の來るのも眸の中に收めてゐたらしい。枸橘の生垣を隔て〵、自分は其の看護婦を見守ると、手に眞紅な薔薇の花を弄びながら、ほつれ髮は頬に垂れて、眤と此方を見てゐる眼元の愛らしさ。

自分は悸つとして「菊ちやんぢやないか……」と出かゝつたが、其の儘默言て行き過ぎた。けれど、何も餘りに似てゐるので、村端まで踏込んだのが、また引返して同じ生垣の傍まで來たが、もう姿は見えなかつた。自分は二三度其の生垣の下を往來した。誰れも人通りはなく、葉風もなければ、暑さは烈しくて、じりじりと汗が額に流れる。

やつと考へを廻らして、自分はぐるぐると病院の垣根を廻つて、門を入りわざと玄關に立たずに彼の忘れることの出來ない女の覗いてゐた、窓の下に來て、裡を覗かうとしたが壁板が餘りに高くて、僅に天井の板の木目が見えるばかりだ。

「水を一杯おくんなさいまし」と言ひかけて――餘りにだしぬけでないかと氣が付くと――怖氣がついて、今更何したらよからうかと仕打に困り、足下を見る目先に紅い薔薇の花がむしられて捨て〵あつた、此時の嬉しさつてはありやしない。丸で戀人を手に入れたやうに、早速一片の花瓣を取り殘さずに拾ひ上げて、そつと袂に隱す。遽かに安堵した氣持て、以前よりは威勢よく。

「どうぞお願ひ申します、水を一杯頂かれませんか。」と言つた。

すると、此度は思ひもよらぬ狐のやうな顏をして、同じ白姿の女が、

「何か御用ですか。」

「へい水を一杯。」もう、物を言ふはりあひもない。

「水なら、此様とこにありやしません彼方へお廻り。」と玄關の方を指圖した、自分はたゞ默禮して、其の病院の門を出て、其村を一日藥を賣て歩いた。誠に暑かつた日で、前に井戸のある家の前に立つ毎に水を貰うて飲んだ。娘さんが上てゐる時にや、優しい聲の一つも掛けてもらつて、格別涼しい氣持がしたし、婆さんに貰うた時にや、お禮の一つも餘計にする。自分が釣瓶を自から上て飲む時にや、若しも此家の娘が、あの、菊ちやんに似てゐる看護婦でないかなど〵思つて、一夜此の家に泊めてもらひたいやうな懐かしい氣持もした。

偶然、雜貨を商ふ家の前へ出ると、ランプや小壜やうのものを賣てゐる、自分は早速入り込んで目に付た硝子壜を取り上げて、一個買ひ求め、其に水を少し貯へて、袂から薔薇の花を取出して、浸し込み、もとの如く蓋を水の溢れぬ樣にしかとして、古新聞紙を一枚貰つて壜を包み、其邊に落ちてゐた繩片で壜の口許を結ひ、訝かしさうに見てゐる女房に

「これや、めつたに無い薔薇の花で、藥になるんですよ。」

と言ひ捨てそれをぶら下ながら家を出た。女房は頷き乍ら見送つてゐる。自分は商買の上では別人間になつて、蘇生る樣な冴々しい聲を張上げて、熱さに弱つてる人に成たけ買はすやうに言つた。

「妙藥千金丹！暑氣拂ひ、頭痛、腹下りに効能あつて、飲て爽快にして、氣持のよい千金丹に萬金丹！」

「奇々妙々藥の千金丹で御座い。サ、一服お買めになりませ！」

と、若葉青葉に對のやうな村中の靜けさを、自分の聲で破りながら、日暮方、其村を去たのである。

曾て孤兒の自分が、故郷にゐて村長の救を受け、其家から學校へ通はされて苦學をしてゐた時分、一人娘の菊ちやんに慕はれて、自分も其の少女を愛し、何時しか深い情中となつたのである。それがとう／＼知れて、自分は其村から逐はれ、娘は間もなく他へ嫁られてしまつたさうな。夫から自分は一度は都へ出たけれど、重なる不幸の末は、今では藥の行商人と迄零落てゐるのである。しかし未に菊ちやんを慕ふ心に變りがない、何時かは錦を着て故郷に歸らうと思つてゐる。

＊　＊　＊

三年經た今でも、尚ほ自分は藥賣である、故郷へ歸る日は際涯なく遠い。夫まで菊ちやんは達者でゐて呉るであらうか

今年はまた、薔薇の花を拾つた地方へ出稼する順番が來たのである。恐らくあの、病院の生垣の下を通らうとも、再び愛らしい少女の眸を見んことを希望し得られやうか。

薔薇の花は色あせて枯れても、守袋の中に入れて肌に付けてゐる。（完）

東西名婦傳

孝子かつ女　　須藤求馬

天保年間江戸の孝女かつといふ者の旌表せられたる文に曰く

箱崎町一丁目庄兵衛地借貸本屋渡平吉事平六母　かつ

其方儀、武家方奉公致し、暇取候後、平六養子太七方へ嫁參候處、平吉出生致し姑つね儀者、萬事性急の性質に有之候處、舅姑之存意不背、夫太七儀者、身持不宜、其方衣類、其外不殘質拂、又は質入致し、當用にも差支候而茂、夫々執斗候故、舅姑江不相知樣、太七江竊に異見致候得共、追々行屆不宜、養父より太七儀離縁相成候後、不相替舅姑之衣類等成丈新敷品を爲着、垢付候衣類は、透を見合洗濯致し、日々甲斐々々敷相働候故、平六儀改養娘に致し、伊兵衛と申もの聟養子に致し候處、養母の氣に不相叶離縁致し、其後忠助と申もの、倘又聟養子に致候處、是亦養母之氣に不相叶、離縁に相成候後は、入夫等致し候而茂、親之氣に不相叶節は却而孝養不行屆儀と、兩親之心に不障樣、入夫之儀相斷、平日他出等不致、兩親之機嫌能を歡居候處、養母つね儀、寺參り致し候歸途、俄に氣分惡敷、歸宅後腰引釣歩行難相成、其上時々差込等有之候に付、晝夜附添看病致し、つね快節は脊負醫師江連參、介抱心を盡し候處、追々快方には候得共、腰立不申、便用等自分と致し兼候間、其時々脊負連行候處、養父平六儀者、追々老衰致し、家業茂出來兼候に付、孫平吉幼少之砌より、兼而貸本渡世筋爲覺候處、平六儀重病に相成打臥候に付、兩親之看病、夜分茂不寐に介抱致し、平吉は日々家業に罷出候跡兩親之藥取に參候節は、近所の者相賴置、殊に養母つね儀、菜のものを好候に付、近邊買歩行、平六江は輕き魚類を調爲給、晝夜無懈怠、兩親之看病致し候處、平六儀病死致し候に付、養父忌日並月々兩三度づゝ、養母江申聞、差圖を受佛參致し、つね儀は追々老衰致し、氣隨に相成、食物而已好候間、餅菓子水菓子等買調爲給、多葉粉茂好み候に付、夜分茂度々吸付遣し、便用之儀茂、間に合不申節は、しめしに而取、日々よごれ物人目に不懸樣、洗濯致し近邊に法談等有之節は、脊負連參、右體養母江對し、聊存意に背候儀無之、養父母江貳拾年來、無懈怠孝養を盡し候段、奇特成儀に付、爲御褒美、銀五枚被下候間、難有可奉存。

養母つね事
右　妙照

其方儀、娘かつ儀依孝心、老養爲扶持、一日米五合づゝ、一生之內、被下候間、難有可奉存。

右之通寅四月十八日、於北御番所、被仰渡候勸善之數示に茂相成候間、白身番屋江張置候樣可致事。

南　北　小口　年番

天保十五寅年四月十九日

右之通被申渡候間御達申候以上

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

戰後經營と女子

幹事　秋間爲子

日露の戰いに大捷を得て世界の稱賛を博し得たる日本は、戰後の經營に就いてもまた大いに他に誇るに足るべきの好果を收め得べきか、これ問題なり。

現時日本の經濟界を見るに、三十七八年役の國債十八億萬圓、これに二十七八年役の國債殘額五億萬圓を加へて、二十三億萬圓の國債あり、これを悉く償却するには、必要の衣食住を別とし、國民總てが節約に節約をなし、一人一日一錢宛を貯蓄して、尚ほ三十年の長き歳月を經ざれば完濟に至らぬなり。

二十三億萬圓、實に莫大の負債ならずや、而もこれ當然我が國民の負擔すべき義務あるもの、輕視以て安逸を貪るの秋ならむや、老幼倶に力を協せて、大いに善後の策を講ぜざるべからず、而してこれを爲すには、生産事業を盛んならしめ、國を富ますを以て第一策とす、素より男子は農業、殖林等各種の生産事業に從事して、營々として富の增進に勉めつゝありと雖も、國民の半ばを占めたる婦女子にして、生産事業に身を委ねつゝあるものは尠く、唯だ一家の主婦家族として、僅かに節約以て日常の生活難を喞たざらんことに勉めつゝあるのみ、斯の如くにして能く一國の富を增進し得べきか、誠に心細き次第と謂ふべし。

然れども女子には女子の天職あり、齊家育兒等の重大なる任務あり、專心生産の事業に從事すること能はざるは勿論なりと雖も、猶ほこの間に於て生産の幾分を助長するの餘暇はあり、この餘暇を善用して怠るなくんば、葉末の露の一滴の、聽ては大川巨海の水となる譬へ、國家の富を增進する上に於て、貢獻するところ蓋し尠からざるべし、故に廣濶なる庭園または畑地を有するの女子は、空地あれば假令へ尺寸と雖も無用の地として終らしめず、五本十本の桑樹を植ゑ附くるも宜く、唯だ一本の果樹を植ゆるも宜し、また老人小兒が無聊に苦しむの時、遊戲に厭きたるの時に於て、田の畔に一握の豆を蒔き附くるも宜し、是れ等は多くの時間と多くの勞働を要せずして、簡易に且つ娛樂としても出來る一種の生産事業なり、彼の養鷄の如きも、廣き空地ある田園にあらざれば、人家稠密の都會に於ては到底なし難きことの如く思へる人あるは大なる誤りにして、規模大ならざれば、都會の家庭内に於てもなし得らるゝの事業なり、十羽に充たざるの養鷄なれば、特別の餌食を與へずとも、家庭の殘物を以てしても充分に飼養せられて、而して一日に數個の新鮮なる玉卵を得らるゝは事實なり。

要するに戰後經營の今日、女子と雖も須く時間を空費せず、安逸を貪らず、國家の爲めに盡瘁せんことを望むものなり、國家の爲めと稱して諸種の慈善其他の事業に力を致すも、自個の勞力に依りて得たるものにあらずして、男子の力を藉るが如きは、未だ以て慈善に盡すの眞意義を解したるものとは云はれざるなり。

現代婦人の心得

嘉悅孝子

自家の前途や財政に就いて、日夕心を煩し、氣を疲らして須臾も平安を得るの時もなしと云ふが如き婦人は、思ふに此世には決してすくなくはありますまい。私は敢へて此等の事實を怪しむべき事とは、申しませんが、更に深くたち入つて、今少し婦人たるものが、國家の前途、國家の財政と云ふ事に、注意をしていたゞきたいと思ひます。

勿論一家を整理し、一家の富を增進する事は、つまり國家の繁榮する所以であると云ふ事は、家政學の第一頁に敎ふるところであります。しかも多くの婦人は此事さへ氣にもとめず、たゞ徒らに自らの虛榮心を滿足せしめ、自らの安逸を貪らむために一家を富さむと思ふ人は決して少くないやうでありますが、思へば實に情ない事ではありませんか。

私は思ひますに、婦人現下の急務は、婦人各自が、國家と云ふ事を深く其念頭におく事であります。私どもも國民の一員として、國家に盡す事を寸秒時も忘れてはならない事であります。國家に盡すと申しますれば如何にも、大袈裟のやうでありますが、其實決してさうではないのです。臺所にゐても、其心得一つては、充分國民の義務をつくす事が出來るのであります。即ち家庭にゐて、家庭の人として、常に國家に盡すの道を全ふする事が肝要であります。其第一の務としては、國家の役にたつ子女を養育する事であります。子女養育すべき母たる人が、意氣地なして、怠惰て、我儘て而かも氣の小さい怒り易いやうな人であると假定しますれば、其子の生ひ先き、如何なる結果を生ずるのでありませう。此等の母によりて養育せられたる結果、如何にして大人物が得られるかは、申さずとも明かな事でありませう。

およそ現代及び將來において、時勢が要求する人物はどんなものでありませう。男子はあくまでも男子らしく、女子らしく人格ある正義の士が極めて膽略ある人を要するのであります。女子はどこまでも女子らしく從順で宏量なる人を要するのであります。此要求に應じたる有益な人物を作りて、國家に酬いる事が、私共の第一の覺悟であらうと思ひます。

第二に夫をして國家に有益に働かせる事であります。よしそれまでにはゆかずとも、有益に働く夫を、充分に慰藉するだけの義務を負はねばなりませぬ。潮の如く寄せ來る劇務の疲を洗ひ、朝に夕に、心持ちよく送り迎ふる事が出來ましたらば、眞に妻としての義務を全うしたものと云はなければなりません。

次には家長の目下の收入（よし廿圓でも三十圓でも）にて一家の經營を巧にして、常に餘裕あるやうにする事であります。其妻たる人の覺悟一つでは出來ない事はありません。現に十五圓の月給にて、何不足なく暮してゐる人もあるではありませんか。この生存競爭のはげしい世にゐては、その働きの次第によつては、一家の經費が幾萬の金を要するのも六ヶしい事ではありますまい。しかし私どもは何時までも二十圓の生活で出來るの覺悟はいたしたい事であります。昨日までは綾羅をまとうても、今日は貧窶の苦に堪へられぬ境遇に落る事有と覺悟して、其難に逢ふとも敢へて驚かぬ修養をしてゐましたら、實に人は幸福な者て有ます。世と戰ひ世に破られて悲慘の境遇になるとならぬとは一に主婦の伎倆にあづかる事をおもへば、正に婦人の力の强き事を今更の如く感ぜられる事ではありませんか。實に天は自ら助くるものを助く。現代の婦人の心得は、たゞ以上の所說に外ならぬと信じます。

櫻花號發刊

吾が愛國婦人は讀者諸姉の深厚なる愛眷の下に、日に月に盛運に赴き、號を重ぬるに隨ふて發行部數の增刷を見るに至り、今春よりは殆ど昨年に倍するの部數を刷出して、而して猶ほ足らざるを憾む程となれり、於此乎、この盛運、大發展を祝すると同時に、聊か諸姉の愛顧に酬ゆる爲め、花笑ひ鳥謡ふ、來る

三月二十日

發刊の本紙を

櫻花號

と題し滿紙唯これ花！の盛觀を呈せんとす、而も微力思ひ餘りて其期する所の萬分の一をも盡し能はざらん事を恐る、されど本紙には

名流大家

の常に贊同して筆を執らるゝあり、數百の才媛の想を凝らし文を練りて應援せらるゝあれば、或は想外の好果を收め得て

爛熳櫻花

の夫れよりもかゞやかしき美觀を呈せん、尙ほ

閨秀六佳選

と題し、數百の寄稿家中より六人の才媛を選出し、各家に囑して其得意の文、詩、歌、句を掲げ、以て萬朶の花更らに美花を添へ、淸興悠々春の水の如く、美裝霞棚引く春の山の如くなるべきを期す、乞ふ愛讀を給へ。

▲本號附錄に就て▼

本號附錄奧村刀自の筆蹟は二つながら小笠原子爵の所藏、肖像は中山評議員の所藏にかゝるものなり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人會記事

◎評議員會日取　二月分評議員會の日取は左の如し

二月廿七日（第四水曜日）午後二時

◎第六回總會準備委員會　同會は去る十二日其の第一回を本部に於て開會し時日は六月一日より十日迄の間となし赤十字社總會の翌日を以て擧行の筈なり

◎奥村刀自位記を賜はる　本會主唱者評議員奥村五百子氏は二月六日特旨を以て左の通り位記を賜はりたり

奥村五百子

敍正七位

◎奥村刀自逝去　本會主唱者評議員正七位奥村五百子刀自は病氣の爲め京都大學病院に入院加養中の處遂に養生不叶去る七日午前二時逝去せられたり

◎本部員出張　奥村刀自病氣見舞の爲め去る六日會長代理として評議員鄭濱子氏及び庶務課長大久保高明氏京都に出張し又た刀自葬儀執行に付きては會長代理として評議員清浦錬子氏及び佐藤事務長代理高松鐵太郎氏京都に出張し孰れも去る十一日歸京せり

◎奥村刀自の會葬　奥村刀自の葬儀は生前の功勞に對し會葬となしたり

故奥村刀自葬儀

本會主唱者故正七位奥村五百子刀自の葬儀は本月十日午後一時愛國婦人會京都支部出棺東本願寺大學寮に於て擧行せり刀自の葬儀は總裁殿下の御台命により會葬を以て行ふ事となり本部よりは會長代理評議員清浦錬子氏出張葬主を勤められ本部評議員代表者として鄭濱子氏出張せられ其他東は愛知支部より西は山口支部に至るまで各代表者を出し會葬者の數千二百名に上りしが出棺前東本願寺一臈泉祐義導師二十餘名の僧侶を率ひて勤行あり（歸三寶偈、短會佛、回向文を執行す）終つて支部出棺富小路を五條へ出て五條通りを高倉に高倉を南へ眞宗大學寮に向へり

一時三十分大學寮に着するや式場は右を葬主席に左を親族席に其左右を一般來會者席左の一角を遺族廢兵席となし會葬者一同着席するや泉導師は三十名の僧侶を率ゐて出場し莊嚴なる讀經法要（路念佛、正信偈和讚、回向文、願以此功德の讚經）あり其の間に　總裁閑院宮妃殿下の御名代東本願寺新法主裏方大谷章子氏次に本部評議員總代評議員鄭濱子氏次に二條公爵代近衛公爵代拜　東本願寺新法主代拜佐藤本部事務長代理高松中佐次に大森葬儀委員長次に遺族戸主奥村勢一氏代理同苗敏子氏以下親族十餘人順次燒香し讀經の終ると同時に清浦會長代理（大久保庶務課長代）は左の弔詞を朗讀せり

> **謹告**
>
> 本會主唱者奥村五百子刀自の生前に於ける事蹟功績を後世に傳ふべく今回同刀自の詳傳を編纂致し候に就ては其の一言一行總て網羅遺漏なきものと仕り度候間刀自生前の御知己と然らざるとを問はず御聞き及び又は御記臆の逸事等有之候へば至急御報知の程願上げ候　以上
>
> 愛國婦人會

本會首唱者佩特別徽章正七位奥村五百子殿天資剛正愛國の念に最も強し曩に北清事變の實況に鑑み深く戰死者遺族及廢兵救護の必要を感じ爾來身を起して東京に遊說し熱誠盡力至らざるなく遂に朝野有志の婦人を糾合して本會を組織せられ至慈至善なる救護の業は茲に其端を啓くに至れり尋て三十七八年戰役の起るや愈奮て斯業を擴張し之が實績を擧ぐるの急務なるを認め病軀を提げて寒暑を冒し險阻を凌ぎ近くは內地に遠くは滿韓地方に本會の爲め遊說の勞に服せられ或時は數千の聽衆に向ひ會旨を講說して心血を灑ぎ或時は幾萬の兵士に對し勞苦を慰藉して熱淚を揮ふ等眞摯の情溢れて至誠の言となり鬼神爲に感じ老幼爲に泣く是に於てか其旨を贊するもの所在踵を接し貲を寄するもの殆んど萬を以て數ふべく會に入るもの實に摟指するに遑あらず蓋し僅に數年にして六十萬の會員四十萬の基金を得本會をして基礎益々鞏く事業愈々完からしむるに至りしものは機運の然らしむる所なりと雖も抑も其熱誠盡力の功銘刻して忘るべからざるものあり今や戰塵已に收まり會運日に盛に前途尙ほ盡瘁に須つ所多かりしに二豎厄を爲し溘焉不歸の客となる哀哉久子等邦家の爲め本會の爲め實に追悼して措く能はざる所なり其疾革まるや　宮闕に聞え特旨を以て正七位に敍せらる巾幗の人にして此恩典に浴す嗚呼亦偉なり茲に　總裁殿下の台聞に達し謹て弔詞を呈す

明治四十年二月十日

愛國婦人會々長　岩倉久子

次に大森京都支部長各支部を代表して左の弔詞を朗讀せり

四十年二月七日我愛國婦人會の主唱者奥村五百子刀自溘焉として逝きぬ嗚呼悲哉刀自は愛國婦人會を生み出せる母にして本會の今日ある實に刀自の賜なり病革まるや　天聽に達し特旨を以て正七位に敍せられ又本會會長は總裁殿下の台旨を捧じ特に本會に於て葬儀を執行以て刀自生前の功勞を表彰せらる餘榮大なりと云ふべし刀自以て瞑せられよ

明治四十年二月十日

愛國婦人會各支部總代

京都支部長　大森齡子

次に千家男爵夫人の弔詞（東京支部幹事秋間爲子代讀）を朗讀せり

愛國婦人會創立主唱者評議員佩特別徽章正七位奥村五百子君曩に病魔の襲ふ所となり退隱して彩波漂渺天然の佳景に富む松浦半島に歸りて徐に病を養ふこと半歲今春更に西の都は山紫水明の境に轉して加養怠らず其の速かに全癒の日の來らんことを祈りつゝありしに旻天何ぞ無情なる藥石終に其の效を奏せず今や白玉樓臺の人となる痛惜何ぞ堪へん

愛國婦人會今日の隆盛を見るにいたりしは一に社會進運の然らしむるところなりと雖も亦以つて君が生前老體宿痾のあるをも顧みず寢食をわすれて席暖まるに遑なく四方に遊說したる熱誠切實の結果たらずんばあらず今や會運日に月に盛運に赴き第六回の總會を擧行せらるゝの日又遠きに非ざるの時に方りて溘然不歸の人となる誠に本會の爲め深く追悼して措く所を知らず茲に東京支部會員二萬千餘人に代りつゝ肅て弔詞を靈前に捧ぐ敬白

愛國婦人會東京支部長

男爵夫人　千家俊子

次に服部兵庫支部長鈴木高知支部長川路奈良支部長其他各支部代表者及本支部職員並に來會者一般の燒香あり午後三時半式を終へ直ちに大學寮を出て花山火葬場に至りて茶毘に附しぬ

愛國婦人會會員並女子人口比較表（明治四十年一月末日現在）

支部名	特別會員	通常會員	計	三十六年末女子人口	女子人口百人ニ付會員比例	贊助員
石川	一、九九六	一九、五一〇	二一、五〇六	三八五、四七八	五、五八	六一
山口	八四六	二六、一三二	二六、九七八	五〇六、九二〇	五、三二	八
山形	九〇八	一八、二五〇	一九、一五八	四三九、六一八	四、三六	四八
愛知	一、三三七	三〇、六〇〇	三一、九三七	八六八、五三八	三、六八	五
岡山	一、〇二二	一九、八〇五	二〇、八二七	五七七、二七二	三、六一	八
福岡	二、五九一	二四、八二六	二七、四一七	七七二、七四三	三、五五	九
北海道及函館	三、一四九	一四、四六二	一七、六一一	五〇七、六三八	三、四七	一
熊本	二、八七二	一七、一九七	二〇、〇六九	六一四、四一一	三、二九	二、三〇三
富山	八八二	一一、五九七	一二、四七九	三八四、九八二	三、二四	五二
秋田	八五二	一二、〇八〇	一二、九三二	四〇三、九四六	三、二〇	―
愛媛	四九六	一五、四八〇	一五、九七六	五一一、三九六	三、一二	三九
京都	二、一九六	一四、〇三七	一六、二三三	五二一、三九五	三、一一	一九
兵庫	二、〇六〇	二五、四二二	二七、四八二	八九三、七三四	三、〇七	六八
香川	八二九	九、七一二	一〇、五四一	三四七、八九〇	三、〇三	三五二
群馬	一、五〇三	一一、九七五	一三、四七八	四五四、一七一	二、九七	二二三
島根	三二七	一〇、〇一三	一〇、三四〇	三六二、六三五	二、八五	―
長崎	三、二五九	一〇、二二八	一三、四八七	四八九、三五〇	二、七六	一
佐賀	八七四	七、七五九	八、六三三	三二七、六七八	二、六三	二
青森	一、一二二	七、三五八	八、四八〇	三二二、二一一	二、六三	七
宮城	一、四四六	一〇、一六〇	一一、六〇六	四四五、〇四七	二、六一	七〇七
大分	八三四	一〇、一四三	一〇、九七七	四三〇、〇二五	二、五五	三
神奈川	一、五〇四	一〇、五一九	一二、〇二三	四九九、六二三	二、四一	一
福井	八〇二	六、六五八	七、四六〇	三二〇、一五四	二、三三	一
奈良	二九一	六、一〇四	六、三九五	二七八、一九一	二、三〇	―
宮崎	二六七	五、四一八	五、六八五	二四七、二五二	二、三〇	一八
三重	四〇二	一一、四五六	一一、八五八	五二二、〇四三	二、二七	四
高知	二五六	六、四三五	六、六九一	三一八、二四五	二、一〇	―
岩手	六六七	七、〇二五	七、六九二	三六九、二七八	二、〇八	―
徳島	三五四	六、五五四	六、九〇八	三五二、六〇八	一、九六	五
滋賀	四九六	六、四八四	六、九八〇	三六四、六八八	一、九一	―
福島	一、一九五	九、八七八	一一、〇七三	五八二、一五六	一、九〇	一
大阪	三、〇七〇	一二、七〇八	一五、七七八	八六三、四〇五	一、八三	一七
東京	七、六四八	一三、〇四〇	二〇、六八八	一、一五七、五一四	一、七九	三八
靜岡	六三五	一〇、四〇八	一一、〇四三	六四〇、八四八	一、七二	一
千葉	九九七	九、八六六	一〇、八六三	六五六、七八二	一、六五	二七
山梨	四〇二	四、〇〇一	四、四〇三	二七二、一四八	一、六二	一四四
廣島	一、三八七	一〇、一六九	一一、五五六	七四六、六五五	一、五五	―
茨城	五三七	七、八九五	八、四三二	六〇〇、四一三	一、四〇	一
鹿兒島	一、〇七〇	五、七八六	六、八五六	五九四、九八五	一、一五	八
埼玉	三五四	六、八二九	七、一八三	六二七、五五六	一、一四	二七
臺灣	一、九九七	一三、六四八	一五、六四五	一、四〇二、七七一	一、一〇	一八
和歌山	二六七	三、三一七	三、五八四	三五〇、〇六九	一、〇二	一
岐阜	七三三	四、二七七	五、〇一〇	五〇二、六五八	一、〇〇	一
新潟	九一六	七、八三二	八、七四八	八九九、〇二一	〇、九七	一七
鳥取	一六一	一、八九〇	二、〇五一	二一七、五四一	〇、九四	三七一
長野	五四九	四、六一二	五、一六一	六七四、五一五	〇、七七	一
沖繩	三二六	一、三三〇	一、六五六	二三九、五二七	〇、六九	―
栃木	二八四	一、八一九	二、一〇三	四〇五、一二六	〇、四七	一六三
海外	七三七	二、一二七	二、八六四	―	―	二、六七六
計	五九、七〇五	五二四、八三一	五八四、五三六	二五、三一三、〇四〇	二、三一	七、五一三

備考
支部ノ配列ハ會員比例數ノ最モ多キモノヨリ順次配列ス
北海道及函館ノ兩支部會員數ハ合算シテ揭載セリ而シテ函館支部會員數特別七百八十八人通常千五百八十六人ニシテ他ハ北海道支部會員數ナリ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

奥村刀自葬儀彙報

▲葬儀費用　葬儀の費用は本部負擔に付き不取敢金千圓を送れり

▲生花及造花の寄贈　嚴粛と質素を旨とする主旨よりして總裁閑院宮妃殿下及名譽會員東伏見宮妃殿下、山階宮妃殿下、賀陽宮妃殿下、久邇宮妃殿下、梨本宮妃殿下、伏見若宮妃殿下より一對つゝ及び會長、理事及監事、本部顧問より各一對、京都、大阪、兵庫の三支部より各一對を受けしのみにて其他は總て拒絶したり京都府知事及奥村家親族より一對宛の寄贈は特に受理せり

▲葬儀委員囑托　會葬につき本部に於て萬事取計ふ可きの處便宜上會長より其事務を京都支部顧問大森鍾一及支部長大森鈴子の二氏に委任したり依つて委員長は大森顧問其任に當り左の委員を囑托し事務を處理したり

▲葬儀本部委員長　大森鍾一、委員西郷菊次郎、島田剛太郎、大久保高明、入田一精、
▲受付部長　川越重幸、委員菅龍貫、小森芳次郎大屋督、四村七平、熊谷市兵衛、今井辨三郎、津田榮太郎、外村定三郎、松居庄七、中村常七、四羽善次郎、
▲儀式部長　中澤岩太、委員金子篤壽、橋川惠順、小泉俊太郎、
▲接待部長　高橋正博、六角耕雲、委員福山延次郎、高山德三郎、末村長次郎、最上文拙、室谷時康、闕目學秀、高辻巖、伊東武彦、堀久太郎、岩垣雄次郎、
▲通信部長　田中勝之丞、委員手島益雄、
▲會計部長　馬杉則知、委員菅谷定興、冨澤證、
▲救護部長　大屋督、委員山本秀暉、小森芳次郎、

▲東本願寺の好意　本會創立の際よりして非常に盡力を與へられたる本會顧問東本願寺新法主大谷光演氏の好意により同寺破格の取扱を以て葬儀法用一切の件を東本願寺に於て引受け執行せらるゝ事となり式場として大學寮を用ゐる事より導師僧侶の任命等一切東本願寺の命令の下に行はれ前後殆んど類例なき最も壯嚴なる法要を營みたり

▲香典　團體及び個人よりして香典を寄贈し來るもの多く二月十日夜迄に合計二千三百餘圓に達せり二月十一日には遺族一同を集め相當の保管方法を立て之を遺族に交付する事とせり其香典の重なるものを掲ぐれば左の如し

金二百三十圓	大阪支部職員有志
金百八十圓	本部職員有志
金百五十圓	京都支部職員有志
金百圓	公爵夫人岩倉久子
金百圓	公爵島津忠濟 公爵夫人島津田鶴子
金百圓	東京支部職員有志
金百圓	京都支部
金百圓	大阪支部
金百圓	兵庫支部
金百圓	福岡支部
金百圓	石川支部
金百圓	愛知支部
金百圓	大阪府　岡逸子
金五十圓	愛知支部職員一同
金五十圓	石川支部職員一同
金五十圓	栃木支部長
金五十圓	京都　伊澤千年子
金三十圓	富樫まき子
金十五圓	福井支部
金十圓	龜井宮城支部長
金十圓	周布神奈川支部長
金十圓	岡山支部長

▲會葬者　當日會葬の重なる人々は左の如し

東京支部長代理幹事秋間爲子、同事務員和久井久次郎、愛知支部長代幹事枝千代乃、同沼波はす子、同事務員杉山覺三郎、滋賀支部副長中村安子、同折原覺子、幹事服部いつ、同長谷アイ子、同主事田中亮、福井支部幹事部代表者幹事仙石トセ、同三崎歌子、同主事福井慎吉、同事務員杉山喜兵衛、奈良支部長川路水尾子、同事務員中村五藏、佐賀支部代表事務官橋本正治、同警部福岡義竝、三重支部主事玉井修眞、石川支部主事佐藤鑄他郎、廣島支部幹事三坂ゆき子、同事務員矢飼虎三郎、山口支部事務員内藤十六、和歌山幹事部加藤幸、同事務員富永種之丞、奈良幹事部代表事務員吉田保夫、香川支部事務員松本爲二郎、東京府評議員代加藤駒二、東京趙義閑、肥前唐津町長代理倉持彦島、公爵近衛家御使、村雲日榮公御使、公爵二條家御使、岡山支部主事飛田耕藏、兵庫支部長服部鈴子、同主事重見良材、大阪支部評議員廣岡淺子、同幹事神野錐子、同土居通子、同土居茂子、同山口寛子、同平賀光子、同内海まき、同井上幾子、同前川うた子、同前川千代、同廣岡幾子、同山邊とし、同岸本しん、同戸田あつ子、同吉住やつ子、同事務員龜岡豐藏、婦人法話會幹事平尾多壽子、京都婦人慈善會粟辻みと、平安徳義會孤兒院田中泰輔、第一高等女學校長河原一郎、京都淑女高等女學校長田島敎惠、菊花女學校總代笹山章子、京都篤志看護婦人會村岡久野子、京都女子手工學校、同志社女學校代表和田雅熊、第一高等女學校田中友二郎、第二高等女學校生徒總代原田松枝、第二高等女學校職員總代岩橋高子、大谷光演伯御使田中寅暢、島田三郎代理大森男、高木豐三代理高木重吉、其他本會京都支部職員一同

▲弔辭と弔電　別頂式場靈前にて朗讀したる弔辭の外各地支部其他より寄せられたる弔辭弔電は左の如し

弔辭の部

謹みて我が尊愛なる正七位奥村五百子女史が御靈の御前に弔詞を奉る　女史往年五十餘歳の老軀を起して韓國に入り更に淸國に入て其悲狀を見多年潜みし女史の衷情は日本婦人覺醒の念を悟り潜かに思慮を焦し玉ふこと數年偶々北淸事變の起ろあり　女史は一竿の竹杖にすがりて軍馬の間を奔馳し幾多貔貅の心裡涙あるを知られ遂に大志を決して軍人後援を叫び遺族救護を企て經營を定めて歸朝直ちに朝野の貴顯を説き婦人を動かしてこゝに見る愛國婦人會の創立嗚呼愛國婦人會これ女史が積年蘊蓄眞情の結晶なり以後布衣竹杖東奔西馳して眠れるを起し諄々乎として倦み玉はず孜々としてつとめ玉ふ事こゝに年あり矣には　皇后陛下破格の賜を玉ひて其の勞をねぎらはせ玉ふ女史の感憤いかにぞや見よや日露開戰中に於ける我婦人會の活動や其効果や言はずして明らかならんさはれ不幸二豎の竊女史の身を犯して三十九年退院の已むなきに至らしめたりき今春早々女史宿痾を養ひて京都に上らるしかも遂に立たず明治四十年二月七日六十三歳を以て卒りたれどもなほ偉靈は百萬の會員の胸に生き玉ひて互に奮起國家貢獻の實を全うせんことを誓はしめ玉ふ　あゝ慈母君が百萬の孤兒は君が千古偉業を繼きて更らに後世に發展することを怠らざるべし幸に女史御心易う地下に瞑せよ今や御靈の御前に跪き遺孤愛國婦人會大阪支部を代表して君が遺靈を弔ふ

愛國婦人會大阪支部長高崎榮子

其他　神奈川支部長、廣島支部長、山口支部長、千葉支部長、岡山支部長、香川支部長、和歌山支部長、沖繩支部長、福井縣坂井郡幹事部、兵庫縣美嚢郡幹事部、京都府葛野郡幹事部、岡山縣御中郡幹事部長、兵庫縣朝米郡幹事部長、愛媛縣宇摩郡幹事部長、兵庫縣揖保郡幹事部長、愛知縣海四郡幹事部、福井縣福井市幹事部、廣島縣深安郡幹事部、京都府相樂郡幹事部、靜岡縣磐田郡幹事部、京都尙武義會六原支部長、靜岡縣蒲原郡赤心會、日本赤十字社長、山田朔子、小菅こさい、士岐小二郎、福井縣今立郡幹事部、福井縣大飯郡幹事部、埼玉縣兒玉郡幹事部、群馬縣群馬郡幹事部、大分縣南海部郡幹事部長、愛知縣寶飯郡幹事部、石川縣石川郡幹事部、愛知縣春日井郡幹事部、京都府天田郡幹事部、栃木縣下都賀郡幹事部、福井縣三方郡幹事部、靜岡縣濱名郡幹事部、大谷派婦人法話會會長、丹波船井郡園部婦人會、舞鶴要塞砲兵大隊長、小西繁子、宇都野てん、山田猴一、檜垣まき子、長島たけ

弔電の部

本會顧問子爵小笠原長生、二條家、沖繩支部、鈴木臺灣支部副長、評議員下田歌子、平襄本會顧問堀内文治郎、本會顧問公爵島津忠濟、同理事島津田鶴子、評議員原禮子、京都船井郡幹事部顧問、本會理事子爵夫人谷くま子、本會顧問子爵伊東祐亨、富山縣篤志看護支部長、京都府與謝郡幹事部、兵庫縣河邊郡幹事部、石川縣羽咋郡幹事部、栃木縣足利郡幹事部、宮崎支部長、京都府竹野郡幹事部、福井縣敦賀郡幹事部、大分縣北海部郡幹事部、鹿兒島支部長、同那珂郡幹事部、愛媛縣越智郡幹事部、福井縣坂井郡幹事部並木、愛媛縣郡中幹事部、吳市幹事部、茨城支部、日本女子大學成瀨仁藏、新潟支部、秋田支部長、沖繩縣知事、長崎支部、淺草區幹事長田イセ、評議員濱尾作子、石川縣牛津郡幹事、陸軍少將長岡外史同夫人、函館支部長、神奈川支部長、岩手支部、靜岡支部長、廣島市幹事部長、栃木縣那須作山幹事部、石丸佐賀市長、奈良縣吉野郡幹事部長、評議員岩佐德子、姫路安東貞美同やゑ、本會顧問男爵松平正直、評議員松平須磨子、松平芳子、海軍中將夫人日高稱子、中溝德子、大分縣下毛郡幹事時サムコ、岐阜縣稻葉郡幹事部長、高岡稅務署長寺井邦二、田代門司市長、東京朴永孝、松山幹事部、濱松長谷川チセ、高知縣高岡郡幹事部長、大分縣大分郡幹事部長、姫路市幹事部長、石川縣金岩町會員、高岡市幹事部長、京都府加佐郡幹事部、石川縣金岩町役場關省吾、石川縣魚津郡幹事部、富山縣伏木町婦人會員一同、京都府何鹿郡幹事部、村上石川縣支部長、評議員嶋郁子、武田山梨支部長、愛媛縣新居郡幹事部、山形支部長顧問、評議員中山幸子、長野縣諏訪郡幹事部、愛知縣八名郡幹事部、富山支部長、宮崎縣宮崎郡幹事部、長崎縣北高來郡幹事部、釜山婦人會、愛媛縣溫泉郡幹事部、富山縣上新井郡幹事部、熊本支部長、大分縣西國崎郡幹事部、長野縣諏訪郡宮川村英明村會員一同、廣島縣安佐郡幹事部、富山縣四戸波郡幹事部、大分縣名尾入部幹事部、石川縣羽咋郡戸水村長、東京野中やち子、東京太田覺眠、大分支部長、鳥取支部、神奈川縣支部顧問、大分縣下毛郡幹事部、鳥取支部長、東京原胤照、門司幹事長、宇都宮幹事部、大分縣宇佐郡幹事部、佐賀市幹事部長、北海道支部、川島ラク子、韓國委員本部長鶴原セイ子、岡山支部、佐賀縣西松浦郡幹事部長顧問、福井縣圓生郡幹事部、京城委員長三浦キヨ、北海道小樽幹事部、高崎市幹事部、佐賀縣藤津郡幹事部、愛媛支部長、青森支部長、佐賀縣唐津婦人會幹事、長野支部長、寺田岡山支部長、山口縣支部長、廣島支部長、石川縣鹿島郡幹事部長、群馬支部、大久保埼玉支部長、愛知支部、評議員德川、中山栃木支部長、同深町副長、石川支部、石川縣江沼郡幹事部長、若松幹事部、愛知支部長、香川支部、三重支部長、德島支部長、熊本代治子

▲納骨式　奥村勢一氏始め遺族一同は十三日午前九時東大谷なる納骨堂に故奥村五百子氏の遺骨を納むるため東本願寺橋川惠順氏と同行し其の式を擧行せられたり當日參拜燒香せしは京都支部幹事小泉滿壽子平尾多壽子等の拾數名尙本部大久保庶務課長も參拜せり

▲遺族廢兵に贈與　刀自生前の遺志により京都支部在住の遺族及廢兵にして會葬せし人々に對して饅頭一箱つゝを寄贈したり其數凡そ三百餘名なりし

▲貧民に施與　葬儀式場附近の貧民に救助の目的を以て金百圓を同區々長に托し貧民に施與したり

▲葬儀慰勞會　大森葬儀委員長は故奥村五百子女史の葬儀執行に關し殆んど徹夜の姿にて盡力せし夫人方外に葬儀委員諸氏に對し慰勞の意を表するため去る十二日午後四時より市内柳池小學校に一同を招きて紀念撮影を行ひたる後晩餐を饗したり

▲死去前後の模樣　一月十三日京都大學病院第十病舍に入り加養中主たる病源たる子宮癌の方は未だ手術を施すまでに至らず專ら氣管子加答兒の治療に意を注ぎ主治醫たる笠原博士の監督の下に加養中死亡時則ち二月七日午前二時より七時間前までは精神確にして肺の方は餘程病勢を減したる心地なりしにより看護婦に爪を採る事を命じ居りしに俄かに心臟に異變を來たしたるもの丶如く痛む〳〵と胸部を示されたるよしにて直ちに笠原博士の來診を求め注射を施し診斷を受けし處全く心臟絞狹窄症を併發せしものにて（俗に所謂る心臟痲痺を起せしなり）餘病併發後七時間を過ぎて全く絶命せられたり病名は加答兒性肺炎及心臟絞窄症なり

間に合はぬ記

手島益雄

「愛國婦人」發送の當日午後三時頃「オクムラシキヨ」の飛報に接した、そこで取る物も取敢ず直ちに新橋停車場に駈付け、午後六時發の最大急行列車に乘込んで京都に向ふた、行く道すがらも奥村刀自のことのみ胸に浮んで、一睡も出來なかつた、越へて翌日午前七時に京都に着いた、小荷物を後へた儘車を傭ふて醫科大學の附屬醫院に向ふた、洛中洛外霜に鎖されて朝日が漸く東山にさし登る頃病院に着いた、未だ受付も出て居ない、兼て刀自の病室は第十病舍であると聞いて居たので、案内をも待たず玄關を上つて左手へ差かゝつた、此所に第一病舍の札を掛けた時は「占めた」と獨りで喜び、刀自に面會するも瞬間にあると思ふて雀躍した、勾配のある長い廊下を踏んで第二の病舍に達した時は、心臟の鼓動が早鐘をつくやうになつて來た、第三第四と越へて第五病舍の處に往く頃は、非常に淋しみを感じて、後から人が窃み足で追掛けて來るかと思ふた、愈々九病舍を見るに及んで足は覺へず知らず走せて十病舍に達した此處ぞと思ふて騷ぐ胸を押し靜め、其前に掲げてある患者の姓名を始から終りまで注意して讀んで見た、然るに奥村五百子と云ふ名前がない、變んだと思ふて再び讀み直したが矢張ない、只二度目には赤い丸が一つあるのを認めた、茫然として居る處に一人の白衣の看護婦が出て來た、所で「奥村さんは」と問ひを發した處が、横に顔を向けて答へが無い、余は聞へぬかと思ふて再び問ひ返した時には、看護婦の眼には涙が浮んで居た、そして「昨夜の八時に奥村さんは御引取になりました」と云ふた、余は獨語した、御引取――御引取は死んだんですかと聲を出して叫び、看護婦より左も氣の毒げに屍は直ちに支部に移されたと聞くと同時に、涙がばら〳〵とこぼれて余は其手に攜へた白毛布と傘を其處へ拋げ出して、どつかと其處に坐つて仕舞つた嗚、余所目も憚らず泣いた、あはれ露の夜に攜へた杖を奪はれしが如く立ち上る力もなく、長い廊下を再び戻つて來て支部へ着いた時は、既に大阪の廣岡評議員始め京都の幹事方が額を鳩めて何事か協議せられて居る、其隣りの室に刀自は永き眠りに就いて居られ、呼べども答へなく、再び大きな眼を見る事が出來なかつた、併し刀自は既に死期の近いたのを豫知され、古郷を出立される時は近親に遺物別けをなし、第二の古郷と常に稱し居られた京都に上り宗教上の地を撰んで死なれたのである、所謂功成り名遂げて死なれたのである、嗚呼

このやうに散れと散つたる櫻哉

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女性の祖パンドーラ

服部雨村

女のあるが爲に人生が美しいと共に、女あるが爲めに又人生が罪の世となる。世の中の罪惡の大部分は必ず女が關係あつての事で、御承知のバイブルのアダムとイヴの話は即ち女性が罪惡の始としてある。神が初め人間を塵より作られ、エデンの東方の樂園に置かれ、後に男の肋骨より女子を作り、アダムの伴侶とせられた。時にイヴは狡猾しき蛇の誘惑に迷はされて禁制の智慧の木の實を食べ、アダムにも勸めた。それが爲めに目も開けて互に裸體を恥づるに至つたが。直に神罰を被り、イヴは永久に『懷姙の劬勞』を受け、男子も亦『勞働の苦』を受くるに至つた。以前は老病死の苦もなく、善惡の區別も知らず、裸體にして愧づる事も知らなかつたが、今や子々孫々、永久に勞働の苦、分娩の苦を受け、而かも老病死ある世となつた。之て見るとイブは吾人人類の敵で、イヴの罪惡はゝてしなき人間の苦惱の源となつたのである。

希臘の神話にも之と同樣の思想がある。大昔の大昔、タイタンと呼ぶ巨人の一族が紫雲深き邊に住んで世を治めてゐた。當時は『黄金時代』と云つて、世は常への春にして百花燎爛、和風常に絶えず。樂しき鳥の聲は天上に妙音樂を奏て、林檎、橙の類も年中枝もたわゝに實つてゐて人の取るに任せる。勿論勞働なく病氣、悲哀、死去などもなく、寒も無ければ嵐もなく、「萬人は萬人の友」にして恒に春風和煦の世であつた。然るに巨人クロノスの子ヂユピターは自ら天地の主宰神たらんとして戰を起し、遂にクロノス以下巨人族を下界に幽閉し、己れ先づ神人の主として最高最上の主權を握つた、其時何した理由か、プロメトイスと其弟エピメトイス丈は其幽閉を遁れてゐた。

プロメトイスは「先見の神」とも云つて聰明穎悟の質て、今迄の黄金時代の面影は消えて、萬人は萬人の敵」となりしを嘆き、人間をして禽獸より進みたる狀態にあらしめんとして色々苦心の末、「あゝ彼等にして火を持たしめば！」と思つたのである。が。其火をヂユピターに乞ふた時は一言の下に拒絕せられた。今は已を得ずとプロメトイスは或日密に松明の如き木の髓の乾燥せる枝を以て、朝早く「日の宮」の傍近く犯し入り、其焰を枝に移して人間界に降り、火の使用法を人間に敎へた。此の火こそ誠に人文開け人智の進む曙光であつたのである。

ヂユピターは勿論憤つた、が如何にして彼及び人間を罰したか。パンドーラは實に此の時に於て創造られたのである。神々には男女の別があつた、けれども人間界には無かつた。そこでヂユピターは其の宮居のあるオリムピアの「不死の女神」の型を取つて粘土より一人の美女を作らしめた。ヴイーナスは美を與へ、アポロは音樂を與へ、其他誘惑、奸智、同情、敏捷等の性質を、神々は欲するまゝに賦與した。そしてパンドーラは人間界に降り、エピメトイスの家に送られた。

プロメトイスは暫くヂユピターの憤怒を避けん爲めに旅立して、其の出立際に弟のエピメトイスに神より如何なる贈物があらうとも決して受取つてはならぬと戒めておいた。が今この盛裝した美しいパンドーラを見ては兄の戒言を顧る遑もなく喜んで己の伴侶としたのである。エピメトイスには又他の一つの神の贈物があつた、それは木製の美しい箱て、使に來た半神半山羊の神が蓋は決して開けてはならぬと云つたので、エピメトイスは一日中漁獵や狩獵に出かけたり、花を摘み葡萄を集めて外出してゐる方が多いので、パンドーラに不在中も蓋を開けるなと固く戒めておいたのである。

然しパンドーラは不在を守る徒然に、其の箱に付て色々妄想を描いてゐた。見れば木製ながら美しい木理があつて顏も映る計りに光澤がある、側面には多くの男女の子供が花や唐草と纏れ合つて遊戲してゐる蓋があつて、時々は「パンドーラよ、蓋を開け、吾等は汝に幸福を齎らさん」と囁くやうに思はれる、此の中には着物があるか、玩具があるか、又は美味い食物があるかなど〻思つては段々と好奇心も募るばかり、遂には堪へられ無くなつて、或日ソッと其の蓋を開けた。

あゝ其の時、濛々と立ち昇る煙の如きものあつて、無數の蚊の如き動物は四方八方に飛散した、其一匹にパンドーラは前額を刺され、折から歸つて來たエピメトイスも亦手酷く刺されたのであつた。此の動物こそ實に世界に始めて現はれたる「苦難」や「疾病」であつた、今やその輕き羽もて地球の全面に飛散してあらゆる場所に苦や悲や病の種子を播いたのである。驚いて蓋を閉ぢた時は中に一匹丈殘つた、之は「希望」であつたのて、やがて二人を說いて己れも飛び出し、苦や病が暴惡を逞しうせる後を追ふて幾分か其れを和げて行く。

あゝ女性の祖パンドーラが禁制の箱を開けしに因つて人間の身體には痛風や疝痛やリユーマチなどに罹るやうになり、精神には嫉妬、復讐、憎惡等の淺ましい思を懷くに至り、常若の花は夏の炎熱に枯れ、秋の霜に萎縮するやうになり、人事は凡て榮枯盛衰し、人は老い死するに至つた。即ちパンドーラも亦イヴと同じく人間の禍の源をなした者であつた。

が之を神話的に解釋すれば此の罪惡も決して無意味のもので無い。パンドーラ、イヴのみならず、ヂユピター及びプロメトイスも亦然り。ヂユピターが父の軍を滅ぼせしも大罪惡、プロメトイスが火を盜みしも大罪惡、パンドーラが蓋を開けしも罪惡、イヴが木の實を竊みしも罪惡。

然し之は從來の神學學者の解釋に從へば、ヂユピターが父を滅したるは則ち新陳代謝の思想て、人文の進步、社會の發達を意味する。子にして父の思想の範圍以上に發展する事無くんば人間界に進步發達といふものが無い、ヂユピターの罪惡は即ち舊時代に代ふるに進步したる新時代を以てしたので、其の罪惡は進步に對する犧牲てある。プロメトイスに於ても同樣、彼が大罪を犯せしに因つて人智の發達、文化の增進を來せしもの、彼を「人文の祖」と稱するは即ち此故である。イヴに於ては亦た明かに罪惡によつて智慧を得しものなれば其の罪惡は決して罪惡てない、前述の「吾人々類の敵」ては勿論無い。イヴが禁を犯して智識を得、人間の目を明にせしめて互に裸體を愧づるやうの事なかりせば人間は依然として今尚ほ禽獸と同樣の狀態にあらねばならぬ。男子が「一生のあいだ勞苦みて其(土)より食を得」るは、人智開發に對する報酬として寧ろ少い。女子の分娩の痛苦すら男子が引受けても可い筈である、女子の罪惡ありしが爲めに智識を得たのである故、分娩の大任ある女子に對しては男子たるもの餘程の尊敬と同情とを拂はねばならぬのである。

パンドーラの神話に於ても亦同樣てある。パンドーラあつて初めて人間界に生死あり新陳代謝あり、災害禍難なくんば人間界に發明なく硏究なく從つて文明もない、新陳代謝は即ち人智の發達、社會進步の母てある。女性の德亦大也といふべしてある。

文藝と安心

原篠川

人も已に知るが如く、元祿七年晩秋九月、俳祖芭蕉庵桃靑難波に遊ぶや、月の二十二日、「白菊の目にたてゝ見る塵もなし」と詠はれたる、女流俳人園女が園女亭に招かる、此時饗應の菌毒に中りたるか、泄痢にかゝりて翌月十二日、遂に其の客舍に歿しぬ、其の死に先だつこと僅に三日、かねて病衰の後をうけて、病勢大に革りたる九日の夜、重患眠りをなし難きため、枕により句を案じ、「旅に病みて夢は枯野をかけ迴る」と詠ず、生死の大事を目前に控へ乍ら、生涯好みたる風流に隨ふ、まことや我が俳諧の前に在りては、病苦も病苦ならず、最後も最後ならず、大死一番し了つては、病もなく死もなく、一念唯斯の道あるのみ、平然として句作に商推す、蓋し別に病あるを忘れたるに非ず、只之に勝てるのみ、故に其の句に旅に病みてと云ふ、之を忘れずして而も憂へず、只其の憂ふる所は我が俳道が、早く談林風の吹き荒める、此所難波の里にありては、宛然枯野に通ふ小徑にも似たりと云ふにあり、故に其の夢は枯野をかけ迴りぬ、道に忠なること此翁の如くにして、始めて病苦死苦も彼が如く、貧賤も其の志を奪ふこと能はず、文藝に安心することを得ん。

然も我が道に忠なるを以て、「これを妄執の一」と卑下し、門弟知人に勸めては、「彌風雅御勉、老後御樂に可被成候」と遺言す、所詮は高論激說して、學を衒ひ道を賣りたる者に非ず、而して其の老後の御樂しみと云ふものは、意ありと思へば意あるが如し、一生を放浪せる我が身を嘲りて、家事職業を怠らず、働いて餘力ある間に文を學び、頹齡に及んで消閑に遺悶の道に備へよと解くは一なり、老來生死の巷に近づく、俳諧によりて立命を得ると釋くは二なり、第一義は其の言によりて明に、第二義は其の行によりて證せらる、今若し斯翁が體敎に從はんと欲し、尚ほ且つ一生を斯道に捧げ得ざる多くの人々は、第一義を執つて第二義に出づるを妙とせん、但し之れ獨り俳諧の爲のみに云ふに非ず、あらゆる文藝々術に於ても、元より亦此事あるを要する也。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

子供くらぶ

猫物語

江戸　靜川

午砲が鳴ッてまだ間もない、午後の日光が正面に照らす障子を見ると、外は何んだかポカ〜暖かいやうな氣がする、ドリヤ久振りて日向ぼッこをしませうと、久しい間の寒氣で火燵のなかや、長火鉢の猫板の上てばかり、厭き〜するほど寐て居た玉と呼ぶ斑の小猫は、首ッ環の鈴をガラ〜云はせて、嬉しさうにお座敷の椽側に出ました。

椽側には最前まて御隠居が眼鏡を鼻の頭に載せて、詩韻含英とやら云ふ書物をひねくッて居た跡て、厚い、ホカ〜するやうな友禪の大きな座蒲團が敷きッ放しにしてあります、玉はこれ幸ひと云ふやうな顔をして、其の座蒲團の上に載ッかるが早いか、投げ出すやうにコロりと横臥になッて、偖てお庭を見渡しますと、お庭には松だの躑躅だの櫻だのと、種々の樹が植はッてあるが、今は梅の花盛りで、梅がお姫様なら、外の樹は皆んなお供の侍女かなんぞのやうに見劣りがせられて、一向に引ッ立ちません。

玉は臥ながらにこれを眺めて

「本當に梅は品のいゝ美しい花だわ、御隠居さんが梅の詩を作くるなんて被仰ッて、四角な字ばかりの書物を開けたり閉せたりなさるのも無理はない、詩と云へばお嬢さんは臥龍梅を見て和歌をお作くりなさるッて、お正午から龜井戸へお出てになッたが、何にも龜井戸三界お出かけにならなくッても、お庭に斯んな美しい梅があるのに、御苦勞さまなこッた。」

なんて獨言を云ひながら、眼を開けたり閉さいだり、風も起たず日が一杯に射し込むて、ポカ〜暖かいので何時かしらトウ〜眠むッて了ひましたが、暫くしてフト眼を覺しますと

「ホー法華經。」

と美しい聲、玉は寐返り一ッして凝ッと聲する方に瞳をつけ

「鶯の初音ー、美い聲だわねえ、御隠居さんは何所て聞いてお在てだらう、御存じてなけりや知らせて進げたいわ。」

と今度は起き上がッて、脊伸びをして欠伸をすると同時に、また

「ホー法華經。」

鶯いては谷渡り、玉はモウ其の美しい聲に聞惚れて、恍乎として御隠居に知らすことも何にも忘れて了ひました。

が、何んと思ひましたか、忍び足をして梅の木の下へ寄ッて行ッて

「モシ〜鶯さん、私は玉と云ふ猫てすが、貴女を捕らうのなんのと云ふ、什麽悪者ぢやないのよ、てすから其所を逃げないて待ッて頂戴、私も今直ぐ其の枝へ登ッて行きますわ。」

と聲をかけますと、鶯は吃驚して

「ヘーエ、貴女はお玉さんと云ふ猫てすか、貴女嘘を吐いて追ッかけたりなんかしちや厭やてすよ。」

「ナニ什麽事をするものてすか。」

と云ひながら鶯の止まッて居る枝にスル〜登ッて行きまして

「貴女は何うして什麽美い聲が出るのですか、私羨ましくッてよ。」

なんてお世辭を使ひますと

「冷かしちやいけませんよ。」

と鶯は澄ましたもの、玉は猶々傍へ擦り寄ッて、例の猫撫聲で言葉を續け

「私それから貴女がホー法華經と嗁かれる、其の調子のいゝのにも感心しッちまひましたわ。」

と云ふと、鶯は怪訝な聲をして、小首を傾むけ

「貴女にそれが何うして解りますか。」

「解りませいてか貴女。」と云ッて得意氣に「これても貴女、私も佛樣の方には餘ッ程縁が深いのですよ。」

「ヘーエ、こりや初音てなうて初耳てすわ、私をホー法華經と嗁くから歌人が冥土の鳥と云ふのは無理はありませんが、ニャーとかニャーオンとか嗁く貴女が佛様に縁が深いとは何う云ふ譯てすか。」

「貴女なんか私を日本のものと思ッてお在てゝせうが、元私の御先祖は日本の動物ぢやなくッてよ。」

「ヘーエ、それては何地て……。」

「天竺なのよ。」

「天竺てすッてまあ、其の遠い天竺から何うして日本へお出てになりました。」

「それが貴女佛様に縁が深いので…。」

「鳥渡お待ちなさい、貴女の御先祖は天竺て佛様に縁が深いと云はれますが、お寺に懸ッてあるお釋迦様の涅槃の圖を見ますと、大概の動物はお釋迦様の傍に寄ッて泣いて居るのに、貴女の社會は見えぬがあれは一體何うしたのです。」

「それがですよ貴女、私達の瞳が一日に何遍となく大きくなッたり、細くなッたり、縦になッたり、横になッたりするもんですから、猫は魔物ぢや、彼所へ入れてはお釋迦樣に申譯がないッて、あれは畫工が勝手に省ッたのよ、ですから日本へ來ても猫は魔物ぢや、魔物ぢやッて、佐賀の夜嵐なんてお芝居ては、人を捕ッて食べるやうな悪者にされまして、私本當に口惜ッてよ。」

「マア、それて涅槃の圖にないことも、日本て悪者にされることも解りましたが、佛様に縁の深いと云ふ譯は。」

「それは斯うなの。」と品を作くッて「日本へ始めて天竺からお經を齎ッて來るに、船の中には鼠が多くッて、日本へ來る迄に大方嚙られて了うので、其のお經を保護るために私の御先祖は船に乘せられて來ましたの、什麽にして佛様には盡しても、日本へ無事にお經が着けばモウそれて用がないと云ッて捨てられ、普通の家庭ぢや天竺の獸だと云ッて飼ッても養ッても呉れず、隨分御先祖は知らぬ土地て苦勞をしましたが、お經を大切にするには猫に番囲をさすに限ると云ッて、諸所のお寺て飼ッて呉れるやうになりまして、山猫〜ッて悪くばかし云はれたものてすが、今ぢや斯な結構なお家庭ても飼ッて下さる樣になりました。」

と、語るを聞いて鶯は

「ハヽア暑い熱帶國からこの國へ來て寒い、其處て貴女達が火燵のなかや、竈のなかへもぐり込むことがすッかり解りました、今日は稀らしいお話を聞かせて下すッて有難う、また機會があッたら私の身の上噺もお聞かせしませう。」

と鶯は、玉に別れて行きました。(完)

子守唄

子守唄は稚兒の耳には天使の聲なり、これに依つて稚兒に多大の慰安と、善き感化を與ふ、最良の教科書也。

○　兵庫　三木千代子

お寝れよ、お寝れよ、お寝らんせー、お寝れと云ふたら、お寝りませー、お寝れと云ふのにお寝らんと、猿若親爺を呼むて來て、お猿を廻はしてよ目にかきよ、おー寝れ、おー寝れ、お寝りませ。

坊やの可愛さ限りなし、山ては木の數萱の數、てーんに輝く星の數、召したるお衣服の絲の數、七里が濱ては砂の數、五反畑の芹子の數、やーまの小松が逆に生へるとも、河原の小石が饅頭になーるとも、坊やの可愛さかぎりなし。

○　長野　隠岐ぎん子

ねん〜よー、ねん〜よー、今日はよい日だ、寅の日だ、寅卷様のおかど立ち、おかゝがないとて不足して、そんならおかゝを呼いてあぎよ、金山小女郎呼むてあぎよ、金山小女郎氣に入らぬ、宮本小女郎呼むてあぎよ、宮本小女郎が氣に入つて、お嫁に何にを着せてあぎよ、下はチン〜縮緬て、上には羽二重紗布の帶、八ッ緒の雪駄てあげましやう。

お嫁の土産に、何にもろた、いーちに香筥二に手筥、開けて見たらば寶筥、ねん〜よー、ねん〜よー、うつしてねんねしてお目覺めに、お乳の出花をあげましやう、お乳の出花がお厭やなら、おきぼこ達磨に風車、飾つて見せましよお目覺めな、廻はして見せましよお目覺めな。

募集繪葉書贈呈

等級	○	和歌	俳句
天位	當選者に	二拾枚	拾五枚
地位	當選者に	拾五枚	拾枚
人位	當選者に	拾枚	五枚

等級	○	短文	新體詩
一等	當選者に	拾五枚	拾五枚
二等	當選者に	拾枚	拾枚
三等	當選者に	五枚	五枚

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

短文

▲夜行（一等）　埼玉　森田　竹子

日暮し終り馬車に乗る、相客五人、寂寥たる田甫道風寒くして空掻き曇れり、行く事二里餘にして流川の渡あり、兩岸篠藪繁り連りて人家なし、馬車は今し沙原を過りて吊橋に差掛らんとする折しも、彼方の藪蔭に火影パッとさして同時にキヤッと燃えつく如き赤子の泣聲怪しう耳に響きしが、暫時にて夫も止み、車中亦聲なく戞々たる蹄の音のみ冴えて聞ゆ。

▲選者曰　吾又この經驗あり

▲今李白（二等）　青森　茂呂その子

帽は阿彌陀冠りに、足は蹌々、腰の瓢を叩いて一歩一吟、梢の花を散らさんず虹の息吹、桃林春濃やかく鳥歌ふ處、西に東に醉眼を走らせて頻りに酒亭の旗を認んとす、箇中の天地、殆ど我無く人も無し、ア、此仙いづくの今李白なるか。

▲選者曰　繪畫式なり

四村智賀子

▲冬の夕（三等）　愛知　吉田　初枝

軒に囀る雀は丸く毛ふつて居る、池の家鴨は首をすくめて浮て居る、西の西の江州山から吹いてくる風のつめたさよ、川岸に出て見れば、灰色の雲がふわり／＼と此方をさして飛むで來る「ヤアまた雪を持つて來やあがつたな」と赤鼻をこすつて、年を老つた舟頭は溢して居る。

▲選者曰　寫生文に成功せん

▲歸省の春　愛知　本山　久子

樂しきは幼き時の思出よ、春は巴江の花に暮れ、秋は御城の蟲狩りに、月をたよりの歸り道、野犬の怒りに泣き出でゝなぐさめられし事もありし、巴江の公園は舊三宅公の城趾にて、土地高ければ町の家並を初め相川の森、さては八丁畷に馬車の往來ふ樣も見えつ、東北の方童ケ浦の歸帆を迎へ、西に龍王の峯をあほげば、華山先生の御墓を始め、姿の祖先の墓も在りとは非上の歎へ懷かしや、廿年の春の今はたゞ昔ながらの櫻花あるのみ、語ふ友のいまは何處ぞ。

▲御隱居　福岡　松村壽賀子

おとなりのおぢいさんは、今年七十になられるが、日頃愛したまふ鶯を、毎日籠ながら梅の枝にかけて、己は日あたりよき椽に煙草くゆらしつゝ、ながめて居られると、鶯は咲き匂ふ梅の花を窓ごしにめてつゝ、さも嬉しそうにうるはしひ聲をして鳴く、下には去年生れのみいちやんといふ猫がにらんで居る。

▲鶯　長崎　葛原　玉園

春毎に咲き出る花の色香は昔にかわられど、變り果つるは人の身の上なるよ、母君は丁度去年の今日、ふる春雨に散り行く花と諸共に消させ給ひしが、はや一年は囘ぐりて、又もや涙に袖ぬらす時は來たれり、今もそれよ、ありし昔を思ひ出てゝ、愁に沈む折しも、庭の彼方の梅が枝に玉まろばすが如き床しき初音、やよ鶯しばしまたれよ、君は冥土の鳥と聞きつるに、亡母樣のことづて如何に。

▲團欒　埼玉　水野　淑子

暖い太陽の光は椽一杯にさし込んで、樂し想な人々の顏をてらしてゐる、太郎さんは切に鉛筆を動かして、口のない人やら四角なお團子やらを書いて喜んでゐる、花チヤンは足袋縫ふお母さんの傍て、人形の衣服縫ふのに餘念もない、お庭の梅は今を盛りの匂を送つて、どことも知れず鶯の聲が聞えそめた、書齋のお父さんもやがて此處へお見えになるであらう。

▲口多き子　京都　松岡りよ子

父君は今火桶によりて新聞に目をやり給ふ。二階には弟、しきりに口笛をふけり。ヘと氣着てやめよとの心に二聲三聲、よべど答へず。そばなる妹はつとたちぬ、まもなくやみたればほつとばかり息をつきて胸をやすめぬ、父君は口笛をいとひ給ふなり。やがて聞ゆる唱歌鶯の夢！口にいとまなき子かな、と父君はほゝゑみましぬ。

▲牧場の曉　青森　吉田　安子

己が姿に焦れ死にしてふナルキスの紫の花咲ける野の少流れに添ふて牧笛の響、夜の薄霧は未だ晴れやらず、西の山の端には殘んの月白う傾きて若草に踊る羊の群の二ツ三ツ見えしか、軈て乙女の御ヂアナの歸りませしや、彼方の岡には牡牛の聲、餌を足探る雛の友集ふなど、春の旦のそよ風に駒の嘶も勇ましく、農夫が腰の利鎌には、曙の神アポローの笑い閃き始めぬ。

▲母なき子　靜岡　大高ふみ子

花ちやんなぜ泣くの、御母樣がお叱りですと、其れは何かおいたをなすつたでせう、ナニなさらん、本眞ですか、御父樣は、山奥へ御出張中でしたれえ、御可愛さうに、こちらへいらつしやいな、御菓子をあげます、て、もう泣てはいけませんよ、さあたつたお一つよ、お怜悧れえ、御行儀がよくてきて、エーなんてす、内の孃ですか、孃は奥のお庭に遊てゐます、往て御らんなさいな、いらつしやるの、さう駈けて轉といけませんよ、アレ危ない、あれさ……ほんとに頭のない子よ、亡なつたお母樣の面影に彷彿だよ。

▲不變の友　青森　留目　文子

見なれたる名久井の山、聞なれたる馬淵の流れ、あゝそは妾が無二の眞友たるなり、見よ山は峨々として天外に聳へ、川は滔々として平野の中に銀蛇を弄らし、山は手を開きて進め々々高くなれとはげまし、河は洗へ心を清くなれと、あゝ懷しい古里の自然の風景。

閨秀六佳選投票

一　第四面豫告の通り、櫻花號に掲ぐべき閨秀六人を選ぶ
一　其方法は、現在の短文、和歌、新體詩、俳句投稿者中より任意六人を投票する事
一　されば選ぶ人も、選ばるゝ人も、必ず投稿者に限る事
一　投票は葉書にて何誰と六人の氏名を明瞭に認むる事
一　當選者並に推薦者の氏名は三月五日發行の本紙にて發表すべし

締切二月廿八日

▲花をおくる　東京　藤井　花子

姉さま、今朝は何とも云ひがたい暖かい優しい風で待つてゐた櫻の花が漸く三つほころびました、弟が採りたがつて困りますから、ないしよで一花摘んで、五片のうち、一片は姉さまにお送り申します、また一片は兄樣に、一片は私の本の間に押しました、殘は惜い事にやぶれましたから捨てゝしまいました。

▲梅花一輪　福島　横川千賀子

二千里の外さへ暗からぬ秋の夜の月に思をかなでけん、嵯峨野の庵の調べは知る由もなけれど、徐ろ偲ばるゝつま琴の音、誰がすさびなるらん、月影かすむわが窓に聞ゆ、やがて一曲や調べ終へけん。音はやみぬ、折しも窓の外軒はなれて梅花一輪空に舞ひつゝ、あはれ靜けくも長閑なる今宵や。

▲待春記　長野　高橋きよ子

去年の暮に引越したばかりの新築、積雪のために庭作りも出來ず、廣々とした中にたゞ一本の杏と二本の八重櫻、毎日のやうにむつの花枝おもけに見えて居るが、暖かくなつたらば、どんな花がさくであらふか、其頃には言の葉の花もかならせたいものであると、いつもたのしんで居る。

▲曉色　靜岡　伏島たき子

雨戸をあけて、空を仰げば、曉の明星は、前の林の杉を離れ、今し、欅の梢にさしかゝりて、物皆の眠をさますやうに、清い／＼光を放つてお出なさる、その神々しさに身心の穢をも清められたる心地がして、何ともいへぬすが／＼しさを感じ、しばし吾を忘れて見て居ると、黒繪のやうであつた、庭の老松も青々と、雀もちよ／＼と囀り初めた、ふと見ると、お星樣は、どこへおいてなされたのか、空にはちりばかりの雲もないのに。

▲藺玉桃玉　鎌倉　中隈富士子

春の日影は庭一ぱいに暖かい事、軒近く囀る鶯の未だ里馴れぬが殊に可愛らしい、今日も今日とて里人の手に／＼籠持ちて裏山へ行くに何ぞと家の子に聞けば、藺玉造るとて餅草摘に參るなれと云ふ、藺玉とは何ぞと問へば、其は草餅と紅餅を藺の形に綾なして神に供へ、此年の出來ばへを願ひ祝ふ也、又桃多き里にては同じ心に餅を桃の實に形取りて神に供ゆとか、扨ても面白き習慣哉。

▲朝　京都　花輪余志野

郵便てふ聲にうつら／＼の夢よりさめて見れば、白み渡れる雲の色窓の月ほそ々もれそめぬ、得心の書に讀ふかしていぎたなくも朝ねしてけり、さるにても今の便りはたれよりにやと、帶しめもあへず出見れば、忘れもやらぬ學びの友、白岩麗子と水くきのあと匂やかにしるされたり、あまりの嬉しさに封をしきりてよまむとすれば、心なき時計は早七時を打に又おどろき、文さし置て臺所に出てはたきする手もいそ／＼と。

▲親の恩　大阪　十合貴美子

己幸にして不足なき家に生れ、一として不自由を知らずして人となり、世の浪風は何處に吹くや知らざれど、只晨につけ夕につけ、己が悲となすは母が不治の病にいたつき給ふのみ、噫慈愛深き母の健にましませば、如何ばかりおのが家庭に光をはなつならんに、かいなき身はあまた兒等の前途如何に敎育なしうべきや、顧ればおのが責任もまた多きかな、子を持ちて今ぞ知りぬる親の恩。

▲悼荒瀬千勢子君　大阪　富永　才子

かくはしき匂ひのこして梅の花散りにしあとの園ぞさびしき

新体詩

▲夕暮（一等）　福島　横川千賀子

向が丘の松が枝に
　今日の名殘をしばとめて
一きわ照らす夕日影
　さらばと光り沈むとき
ゆかりの色の霧迷ふ
　峰の彼方に鳥のむれ
誰が里さして翅るらん
　霞のかげに消えゆけば
靜かに垂るゝよるの幕
　其やみてらす大空の
星のさゝやきかすかにて
　萬有のねむり聲もなし

▲嫁御（二等）　埼玉　森田　竹子

凩凪ぎて月あはく
　東のそらに出てし時
枯れし芝草かき集め
　燃やすや畑の畔道に
團居樂しく里の子が
　折しも彼方に柴木をば
あさりに行し女の童
　飛ぶが如に馳せ來り
嫁御々々と呼びけり
　子等は均くかへりみて
指さす方を打見れば
　げに美しき花嫁の
嬉びおもに溢れつゝ
　額の帽子きよらげく
梅のはな摺みつ重ね
　裳裾靜にあゆみくる
心の中のやはらぎは
　君が千歳を祈りつゝ
樂しきのぞみ胸に滿ち
　幸を壽ぐにひよめの
ゑまひ貌く見ゆる哉
　あはれ寂しき冬の野も
若草萠ゆる心ちして
　いとのどけしや此夕

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

廣告

◎御園白粉は忝くも皇室の御用命を戴いて調進する日本無比の鉛無白粉であります。衛生を重んぜらるゝ御婦人方は必ず『御園白粉』を用わねばなりません

ねり製『御園白粉』 大器 金七十五錢 中器 金三十五錢 小器 金二十錢 特製一組 金三圓

純白と淡紅色との二種あつて濃。薄。隨意に用ゐられます。肌に附着の好い事と伸暢の能いことは勿論。寒中でも『ひやり』とせず夏向きに乾燥ても斑にならず。幾度重ねて附ても際立つとがありません

水製『御園白粉』 壜入 金二十五錢

薄化粧に用ひ純白と淡紅色の二種であります効能はねり製と少しも異りません

粉製『御園白粉』 紙包 金十錢

純白と淡紅色の二種で煉製や水製を用ひた上へ刷子で刷きつけて顔直しに用ひ。又は洋風化粧用としても隨意です

洋風化粧の仕方は先づ顔へ『御園の蕾』（クレーム）を極薄く塗て柔かな紙か布で拭き取り。その上へ刷子で刷きつけ。それを滑ひ薄革か又は柔かい布か紙で輕く拭のてす

クレーム『御園の蕾』 錫入 金十錢

日本人の皮膚に適應する特効ある藥品のみを調和して精製した『クレーム』で世間にあり觸た油で拵へた『クリーム』とは全く其性質を異にした無類特種の白粉下てあります

うち白粉『御園撫子』 紙包 金五錢 同 金十錢

なでしこは顔直しをする時に下の化粧をくづさずに用はれる顔ふき用懐中打白粉で夏冬共になくてならぬものてす皮膚に特効のある證據には汗母に峻効ある外。腋臭に用へば直に臭いが止り平素之を用ひて居ば遂に忘れた樣に癒ります煉製を薄化粧に用ふ時に溶き伸す藥水で又普通の化粧水として肌理を濃かに艶を麗わしくする特効があります

濃厚化粧水『四季の花』 壜入 金二十錢

濃厚特製化粧水として天下一品の化粧水で皮膚のあれを直すは勿論。凍傷。輝裂。皸裂。日にやけ。汗母等に特効があるの外。蚊や蚤や又は種々の蟲に螫された時若くは火傷した時に綿にひたして局部へつけて置くと痛みが去つて跡に斑が殘らずに癒ります單に化粧水と云ふよりも皮膚一切に特効のある一種の藥水と云ふべきもので皮膚の艶を美しく肌理を濃やかにするので平素之を用ひて居ると顔に小皺のよる憂ひがありません。又かくし化粧には四季の花を少しく多量に塗つて乾いた後ち堅く絞つた手拭てふき取るのです。ふき取ても効能にはかわりありません

高貴の御歯磨『御園歯磨』 硝子器金五十錢 紙包金二十錢

歯牙を保全し口中を清涼にする最も進歩した原料のみを以て調製したもので世間にありふれた歯磨とは其組織の根底から異つたもので口に入れると直に溶解て口中のあれを愈すの効ある最良の歯磨です御園歯磨は普通の歯磨の如く多量に用てはいけません極少量で峻効があるのです

◎以上の外一般化粧の仕方は佐々木醫學士の著『新化粧』定價金四十錢及び家庭新報社編纂『化粧の手引』定價金十五錢を御覽なさい。共に傍訓附の美本です。小間物化粧品店及び書籍店て賣捌て居ます。

雜誌の雜誌

◎妻の心掛くべき氣象 憂鬱の氣象を捨てゝ快活の氣象を養ふ事であります何故に快活でなければならぬかと云ふに一家の幸福は其家庭全般の人が責任をもたねばならぬのでありますが其內要たるものが大なる責任を持つて居るものであります例へばその言動が常に快活て生々して居ると始終一家の者に愉快の感を與へ常に家庭をして幸福多き樂園にします尙快活に就て細かく云へば第一は其の面貌であるスマシ込んだ顔とニコ／＼とした顔との內で女は常に此のニコ／＼した顔をして居られねばならぬのであります（安部磯雄氏明治の家庭）

◎兒童と工具 普通の家庭では先づ子女に工具の類を持たせる事を避けて居る樣であるが之は所謂活動力を無視抑制するの一例ではあるまいか成る程小供に工具を持たせる事は危險に相違ないが持たせない樣にするから却て危險になるのではなからうか小供はみんな工具扱ひの樣な活動的の趣味のあることを禁じられてみれば決して滿足して居るものでない父兄の眼をぬすんでも其活用を試みんとするのが常である若し公然之を持せる事にして置けば適當に其使用方法を授け又危險な時には一々注意を與へる事が出來る即ち活動力を善用するの道に叶ふのである（山內定治郎氏教育の實際）

◎歐米漫遊雜感 亞米利加人の體育に熱心なる事に就て一言せんに予は一昨年先づ米國に赴き米國の視察を了へて後英吉利へ往つて見たのであるが米國の男女の姿勢は英國に於けるよりは遙に勝つて居るといふ感想を起した現に紐育より倫敦に往つて市中を徘徊して見ると英吉人の姿勢は亞米利加人に比すると餘程劣つて居る英國の女子は多少身體が前方に屈して居るやうに見えた（麻生正藏氏なでしこ）

◎家庭と童話 子供が夜になつて床へ入れば第一に先づ「お母さん一何か面白いお話をして下さいな」と云ふ定つた文句は殆んど機械的に彼等の口から發するのですされば御母さんたるものは只「五月蠅いから默つて御休みよ」など、云つて此の要求を却下せず成るべく滿足を與へるやう希望するのです何故なれば子供の希望が完全に入られなかつたら彼等の失望は又非常なもので親の命令にも服從しないやうな恐るべき性癖を形成しないとも云へませんから注意すべきです（木村小舟氏日本の家庭）

◎金錢に關する新處世法 借金をした時には其やり方がある私のやり方は特別なる場合の外は借譽をせぬのです何れの債權者にても行つて事情を打明けて私には斯う云ふ借金があるから是は斯う云ふ會計法に依つて家計を整理して何時迄には是非返金しなければ非常に困る人があるから其方から先に返しあなたの方は義向き御困りさることもないと思ふから後ちに廻したいと思ふ御返し申すことは確てあるから利子は安くして据へ置いて貰ひたいそうしてアチらが片付けばあなたの方へ御返し申すと確實に約束する方が宜い（佐治實然氏新公論）

◎酒と犯罪との關係 酒は百惡の長なり世に犯罪の絶へざるも之が爲めなり不和、喧嘩、無智、殘忍、貧苦、淫猥、虛疾、陷癖若くは諸種の疾病の如きも多くは此に基き不健全なる社會主義の勃興を見んとするに至りたるも又之れが爲めなり個人の敵家庭の敵社會の敵なり酒盃の銘に日く「破壞は此器の內に棲む」「窮乏は其底の上に漂ふ」「死の神は其緣邊に舞踏しつゝあるに非ずや」（小河滋次郎氏中央公論）

婦人洋服地並袴地帽子及小間物一式販賣仕候 其他婦人洋服裁縫

東京市麴町區麴町貳丁目

八木屋號 大國市藏

（電話番町七百四十二番）

高等御婦人用小間物各種

美術貴金屬袋物商

東京日本橋區人形町通り

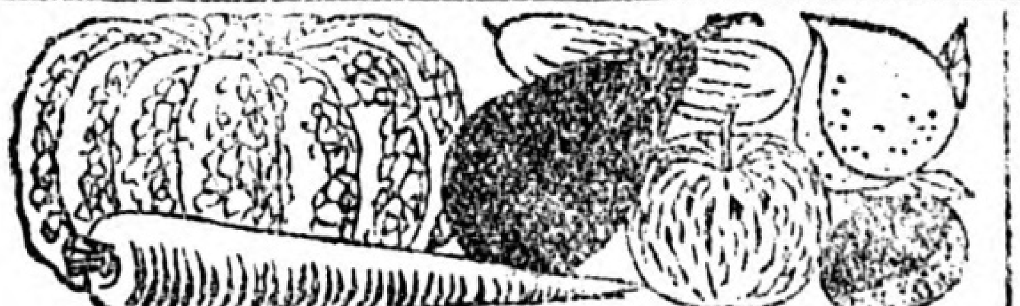
澤田治助

長電話浪花二五六九番

第五拾壹號 愛妻 價郵税共參拾六錢

▲女子判任官 志願の手引 ▲天下無敵 ▲占術 ▲矯正術 ▲人座禪法 ▲粟 ▲神經衰弱 人心操縱法 ▲占島的送 ▲必治法 ▲諸博士立合にて當方の人を催眠せしめし實驗 ▲男女 自活の早道 吃音矯正術 ▲冒險的大魔術 等

東京赤坂區仲之町 博士書院內 女學協會



謹啓火災に付江湖の同情を忝ふし御注文倍舊の盛況を來し感謝に不堪之に酬ん爲め一層精選迅速に品質を精選し勉強可仕候間續々御注文被下度候

農產 種苗定價表

作物野菜草花果樹苗木數千種の種苗種畜園藝農具等の解說及圖畫を入れ其代價を附す

御入用の方に無代進呈す

御出京の方は御立寄實況御覽を乞ふ

東京內藤新宿停車場際 農產種苗問屋 耕牧園

洋織物 裁縫物 毛布 敷物類

何なりとあり有まいと御思召品も御尋下さい

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

天　里の子に梅さく宿をたづぬれは指さす方に鶯のなく　　青森　留目松子

▲評　牧童遙指杏花村より轉化したる歟なれど鶯聲を加へて更に活躍せり

地　長閑なる垣根の野への小松原くるゝもしらす鶯のなく　　函館　安藤喜美子

▲評　平易のうちに詩趣あり

人　雨はれて梅の花ちるぬかり道たちとまりきく鶯の聲　　名古屋　梅村八代子

▲評　四五句今一段の精錬を加へば天位を占むべきを可惜々々、評者修正案を有すれど今之を示さず作者の工夫を俟つ

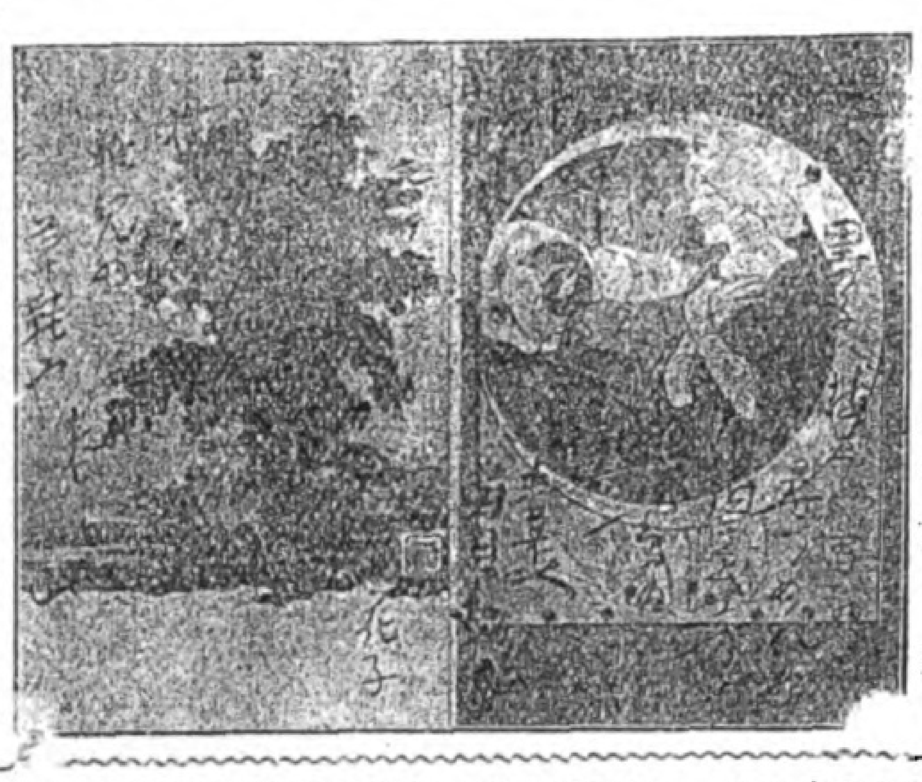
○佳調

梅さく籔かけ道にしも見えてまたさとなれぬ鶯の聲　　埼玉　水野叔子

いつくしむ心になれて鶯もわか家の春をうたふ嬉しさ　　山口　未田竹子

鶯の初音ゆかしと窓の戸をあくれは軒の梅かをるなり　　栃木　中村ひさ子

軒ちかくなく鶯の一聲にねさめうれしき朝ほらけかな　　青森　留目歌子



梅か枝に宿やかりけんこの朝けなく鶯の聲もをるなり　　甲府　風間千代子

霞ふかくとさせろ門の梅の花うくひすならて問ふ入もなし　　東京　安東いの子

うくひすの初音きゝつとつけやらは梅にとはさる友も見えまし　　群馬　伏島たき子

言の葉にいはれぬ春のこゝろをもうたひいてたるうくひすの聲　　群馬　木墓千代子

またきより庭にきてなくうくひすの聲にさめけりはるのねむりも　　大阪　大谷たか子

花おそき片山里のしはの戸にはやくもきなくうくひすの聲　　仙臺　阿部すゞ子

朝日影にはひみちたる梅園になくうくひすの聲のとかなり　　福岡　矢山静江

吹く風に霞はふれとも春なれや軒端の梅に鶯のなく　　岡山　森島古野

春日さす障子静かにひらきけり梅さく庭のうくひすの音に　　福岡　松村縣賀子

梅さけろ友かかとへをおとなへはこたへかほにゐ鶯のなく　　長岡　阿部秀子

しやあさいれておもなまた汝におくけふもの窓の鶯の聲　　岡山　武田須磨子

○甲

うくひすの鳴き出しより世の中の人の心に春はたちけり　　京都　池田美登子

あかて見る梅の梢に鶯の聲さへ匂ふわかいほりかな　　青森　笹田正野

故郷の春はいかにと立寄れは軒端に近く鶯のなく　　青森　清水花子

中垣をへたてゝきゝし鶯のけさめつらしく宿になくなり　　三重　諸戸常子

年立ちて梅の咲くさへ嬉しきにゆかしさ添ふる鶯の聲　　長野　植原千代子

▲評「さへ」は「だに」とすべし

紅梅のほころひそめしこのころをほゝと笑むらし篠の鶯　　東京　山口理勢子

雪きえぬ梅のたちえに鶯の聲にそ園も春めきにける　　東京　麻生敏子

端近く琴ひきなれは梅か枝にこゑをあはせてうくひすのなく　　兵庫　中村益子

窓ちかき竹のしけみに朝な／＼きくも嬉しきうくひすの聲　　京都　清水今子

うくひすに我こと問はん龜井戸の森の白梅咲きや出しと　　長崎　葛原玉閑

すきまもる風も匂ひて曉の寐覺うれしき鶯の聲　　青森　茂呂その子

谷ふかき雪の古巣を立いてく梅か香さそふ鶯の聲　　埼玉　小宮とめ子

筏の音もろゝ山家の軒近くなく鶯の聲ののとけき　　松山　江戸聲子

暁のねさめ朝な夕なに栗木こゝろも路のとけく　　青森　鶯江

鶯の鳴くは夕なに契木こゝろも山の路くと

今日ははやくれて塒に歸るとや明日のつ子　　北海道　河内鶯舞

きて鳴けよ書院の眞靄静かなる今朝の一聲　　佐賀　紅鶯山里

梅か枝にけりの今朝の一聲きゝし仙臺よ渡過わり作

えもひめすりの柳の枝にあさな／＼　　仙臺　渡過ふ作

もえそめしかきの設やう／＼ふる鶯の聲　　神戸　來野なう須

ひすなつかめつ雪もやう／＼　　神戸　宇野露子

降りつゝ鶯のなく初の花の水かけに明し　　岡山　山崎梅の子

一夜のは花のくかき春日の宮崎　　函館　佐多明よ子

くれなゐの庭のゆき鶯のなくかき春日の　　宮崎　未明る子

すきにかそめし梅の梢をたつれ　　宮崎　野島ゑむ子

ちくひすの鶯の聲春日てらして梅かゝる坂本はま子

咲きにけく梅の聲にし宮崎　　山梨　小尾玉代子

あたゝかにはなるる春てらしてのかき　　栃木　中村みつ子

ろのきゝ鶯のことに聲に朝よ

うくひすのはりきくすき初音にしきゝの　　梅さく庭をあさ子

鶯の初音ゝにし朝より

はりし音きゝて

第十四回作歌募集
題　櫻花　一人一首
選者　大口鯛二氏
規定　用紙は愛國婦人附録用紙を用ゐ三月廿日限り發行所宛
優等者には賞品を贈る
本紙上にて作歌披露すべし

第十四回短文募集
題　櫻花
選者　本局同人
規定　用紙は葉書に限る三月廿日發行所宛
優等者には附録用紙を贈る
本紙上に作文披露すべし

第七回俳句集
題　櫻花
選者　本局同人
規定　一人一句三月廿日限り用紙は葉書
優等者には用紙の上に
本紙上にて作句披露すべし

第十二回新詩集
題　櫻花
選者　本局同人
規定　短詩は三月廿日限り
優等者には用紙を贈る
本紙上にて作詩披露すべし

締切三月五日限り

まつほとのつらさわすれて今朝のあさけうれしく聞きし鶯の聲　　山口　未田貞節子

立ならふ梅の小枝をつたひつゝなくうくひすの聲　　東京　覚月琢鐵子

鶯の聲の谷間にかはるなり梢の梅の小枝をつたひて　　東京　村水ひ子

増しの谷間にかはるなり小枝をつくすて　　東京　村水の子

わかれ來し故郷の春の野道に　　甲府　道の月

すてかねて鳴くは世にかゝる里にはかなく鶯の聲

のとけしな春のうくひすの鳴くなるかな　　新潟　たゝき

ひとこゑは春の野道になきすてゝ　　東京　小島梅千代

なつかしき鶯の聲もおほろ月夜の　　福島　中村垣

鶯の鳴くこゑ　　東京　中村お千代

▲評　拙　月夜梅の題につき

つきの音のなきさに梅にほふ　　上海　能勢朝お

昨日こそひとへにはつしもはるけれ　　東京　今朝いくか

くれけりなほそめしむへ梅の　　大阪　十合春子

うくひすの聲のまつりて覺えつゝ　　茨城　綿引霞

乘る夢のさえたる見える杜の　　大阪　喜多音

たすきかけ鶯ひかりて琴のしらへ　　名古屋　女う芳子

予もおのれかけぬりし春の　　東京　安東ち初

立かへり初へこぬ音とりけ軒端の梅の名　　東京　安藤せむ

姬のはつ音き賤かけ軒端の梅　　古屋　名取照子

人とは聲のきゝつけて　　大阪　多賀見ゆ

鶯の聲み梅さへきて　　東京　高谷ち子

移しうゑし梅さへきて　　青森　高谷い子

こゆる鶯の聲

○乙

夕日影古城にひゞきなく鶯　　愛知　閑司

ひすきにめくけるとの初音きかせて手も　　京都　木原貞子

朝きよめして初の鶯に目をとめける　　京都　まちい子

ほれなけくいゝの初鶯に目　　函館　片岡き顔

まれなたかりきやうさかなくみつの聲　　青森　大橋かさ女

來たれる鶯に初の聲　　甲府　廣澤み初子

もほ遠くさえる友の花も住みけんの鳴く身の佗　　山梨　甲府

古巣にも新しき年の初鶯の聲　　甲府　岩室春子

に巣そうきてくはしの鶯をとゝまらせて春かけ　　京都　名取正代

朝庭に梅の初音を見せにけりの　　京都　老梅の若

籠の鶯よ初音のひもとへし梅に鶯の初音　　靜岡　小島正ふ

四句故人か即ちひてはなきを「したしき友に」など改めたし

我宿の軒端に近き梅ヶ枝にきてなくうくひす　　東京　三井宇た

鶯の聲も嬉しき百よろこひにうたふ　　廣島　石井告め

梅の谷のひとつ鶯のきはえて　　山形　土用文利

柴の戸の月ひとすの初音つしき梅

▲評　此の二句の如き重なりて聲に落ち静かなる

咲きしむ梅の香にほふ

谷の鶯

咲きつゝくしき梅林鶯の春ふた　　石川　小阪

心ゆくほの花にひすの聲　　大阪　千賀子

二ツ三ツ鶯ひとつ此春の梅を友としけるかな　　青森　横川ふ子

うくひすの聲はおのつからな梅か香おこりて　　岡山　上田お要

こゝろ音のさやはおうか鶯かつ香りの聲　　東京　かめ子

なちのかたに聲はいかに我宿　　栃木　谷田

我宿によき山家の春のきて聲かなつかし　　岡山　横川日つ

都の聲はかけをわか世となして　　東京　今井朝子

谷の聲いつかれのはつくなに　　栃木　荒川みせ

く鳴き　　横濱　鈴木松子

▲應募歌數　六百三十三首

鶯の初音うれしも雪きえぬみやまの春や今日たちぬらん　　長野　高橋きよ子

露ふかき片山里は鶯ののとけき聲に春をこそしれ　　京都　磯谷・陽子

梅かをるまとにこゆきる鶯の初音にさめしち子のひとこゑ　　福岡　八谷よし子

防れ來てしはしためらふ門口や鳴く鶯の聲

梅かきのひとつも來てなく鶯の　　京都　堀の戸

つかのまとにこゆる鶯の聲　　三里

こよみ見る初瀬の東風にさそはれて　　青森　千代

縫ひ居りしはりの手やめて聞く軒の鶯　　青森　佐藤國子

も鶯の聲の深けし　　青森　大橋八佐

ふりつもる小笹の雪の　　東京　安東の子

いつのまに野邊の白雪うちとけて　　東京　中村ま

來て見れは今を盛と梅の花　　福島　高柳節

ひすの鳴く音たとりて今日もまた　　三重　小暗

鶯の見れは鳴くに音たとりて　　長崎　下川重

日はくれにけり育てし鶯の初音　　三重　大嶽聞

巣籠りの子より育てし鶯の初音　　下川八野

くそ嬉しきあれと咲く梅の　　熊本　吉永みと

さまの梢はあれと咲く梅の窓　　熊本　吉香め

てのなく音ゆかしき梅の窓　　東京　花の風

鶯の聲　　東京　琴の音松子

さえつりにけん音にもおもふ故里の　　東京　小林うた

武士の心と共にかんはしき　　東京　雪の梅

ひすの聲の梅の梢に聲清く　　岡山　白河く

朝日さす梅の梢に聲清くふし面　　岡山　四村ふた

うくひすの聲のにほひ　　岡山　鳥ひ

手すさひの春の朝にそたてし籠の　　日の出

しかろ今日初聲の初の聲

春と云ふ今朝の初聲知りけり　　東京　秋元く

りに鶯の來てまたきにうく　　東京　日初音

我里は梅もまたきにうく　　山形　阿部さゐ子

な窓のゆかし竹むら聲にきゝ　　三里　文井よしみ

鶯の庭のゆかしきこゝろにきゝ　　千葉　鶴音ふしろ

春來ぬとしつか軒端の梅の枝に初音傳へて　　千葉　満宮久良

梅のにほひの聲も　　青森　嫦か梅香

紅梅の香もさく窓や咲いひて一と世のみなき　　宮崎　猿く男

ひか聲のなくみなき　　長崎　竹入白

谷のたつるをさきく初音を竹に　　岡山　河瀬道子

籠の鶯さうけひかり初音を竹に　　岡山　河瀬

た谷の戸を出てゝ初音を竹に　　東京　紅村まつら

く鶯もこの朝けの聲　　東京　紅村さき

窓しめて梅の匂ひにおくらん鶯　　静岡　青木紳ま子

朝きよめしけりか立ちこぬ鶯の　　京都　古川たね子

る鶯の聲を立ちこめて　　東京　長嶺耳子

朝すさまし梅も忘れて鶯に出てゝ

ふるさとのは、とひかて鶯の　　石川　廣野つく子

もうれしくきゝも見えて　　東京　伊矢野つぶ子

我庭にたへて鶯の聲見えん　　東京　伊古集ち子

降子へるゝ梅の香りに鶯は　　岡山　蘆波音子

咲きおくれ梅の香りに　　岡山　蘆波立子

出かけの家のりをうつ垣根に匂ふ梅か　　三重　玉井光子

賤か家の枝とまつもたのし　　花さき來鳴く子

野邊の垣根のたし籠の鶯の幼鳥　　福岡　松野操子

梅か枝とうくひすまつつてなか　　福岡　おほつかな子

う梅とめるのまもたのしなか　　岩手　山崎嬉し今子

飼ひおくし籠の鶯の幼鳥　　愛知　湯浅よしの子

朝なき置けし鳴くて声の梅の花　　兵庫　今朝の初音子

山里に家をうつして鶯の　　三重　河本久米子

はうく居ゐて鶯のゆかしかけり柳　　三重　尾花あり子

春立ちのうちみにかけてみ　　三重　南部すむ子

に澤のうちみにかけて　　三重　心地子

猿澤の池もひらのかけ鶯の　　三重　穗さ子

に鶯のなにうちかけて柳うち　　山口　國さき春子

梓弓はる日のとかに鶯の

こそすれ日のとかに鶯の

梅の花かをるはるの

ふ野邊の鶯

天　脫き捨てし稚兒の草鞋や春の山　　青森　清水花子

地　どちらから笑みしぞ春の二子山　　東京　菅谷八重子

人　名もしらぬ人とうたふや春の山　　名古屋　名取照子

十客

暮れて尙響時明るし春の山　　北海道　足利つる子

渡し場は遠くに見へて春の山　　愛知　梅村八代子

春の山見れば浮ぶや旅心　　北海道　加藤つい子

花に明け花に暮れけり春の山　　石川　小坂夏子

春の山瓢叩いて戻りけり　　東京　高橋千代子

雨毎に色めき行くや春の山　　東京　庭坂たき子

酒くむや蔭の下も春の山　　青森　吉田やす子

消え殘る雪も見へけり春の山　　秋田　三用えい子

繪端書に乘せて送るや春の山　　北海道　加藤はる子

千て居れば小寒し春の山　　東京　赤澤英子

○

見なれざる里におりけり春の山　　長崎　內藤萬龜代

花の香も酒の香もあり春の山　　山梨　林かね子

駿河路や富士を背負ふて春の山　　三重　四山ひさゑ

つい花に宿をかりけり春の山　　北海道　河內りつ子

白妙のすそも霞みて春の山　　東京　三宅久子

趣きが長者振りなり春の山　　京都　香山すわ子

鳥の鳴く聲もゆたかや春の山　　廣島　小田のぶ子

道中の彌次北八や春の山　　青森　高橋たま子

登りには勞れも知らず春の山　　福島　中村千代子

化粧して人に見らるや春の山　　京都　渡邊豐子

春の山今年の足を試しけり　　北海道　小野寺ちとせ

次彩濃よくもかきけり春の山　　大阪　十合貴美子

もゝ鳥もかすみ出けり春の山　　東京　長井うた子

登り行く人も景色や春の山　　群馬　木佐千代子

渡しからはかすみて春の山　　東京　秋元小菊子

春の山うら先はづかしきよそひ　　京都　磯谷陽子

笠ぬき山うらふやうなり春の山　　三重　玉井光榮子

駒とめて笑ふやうなり春の山　　東京　羽仁伊代子

長閑さの里むら霞春の山　　山口　山口そのふ子

ちよれんの里むら霞春の山　　東京　茂呂理子

耳なよき島の喰へ々春の山　　山口　下關たみ子

一二里はまる小げの聲や春の山　　愛知　下郷きくみ子

影ひたすもよ運動や春の山　　兵庫　田村きく子

つれ立て藥師詣や春の山　　新潟　紅村まさ子

春の山御陵拜し春の山　　東京　白井政子

出嫁の姬君見たり春の山　　廣島　村田榮い子

陛の園遊會や春の山　　三重　山內せい子

春の山霞のころも一帶　　三重　水野淑子

長閑さや春の山路を降る人　　埼玉　田島正子

春の山登れば古跡ありにけり　　青森　大高ふみ子

南朝の古跡見てやり春の山　　靜岡　山本久子

いつしか心もとけて春の山　　三河　中村ます子

結ほれし御佐保姬舞ふやる春の山　　福島　森原きさ子

靜けさは保姬舞ふやる春の山　　濱松　山崎だち子

鳥うたふ明るき春の山　　東京　中山露子

月に花やしくに明るき春の山　　岡山　中宮正子

歌よみや花かしき春の山　　東京　山崎久長子

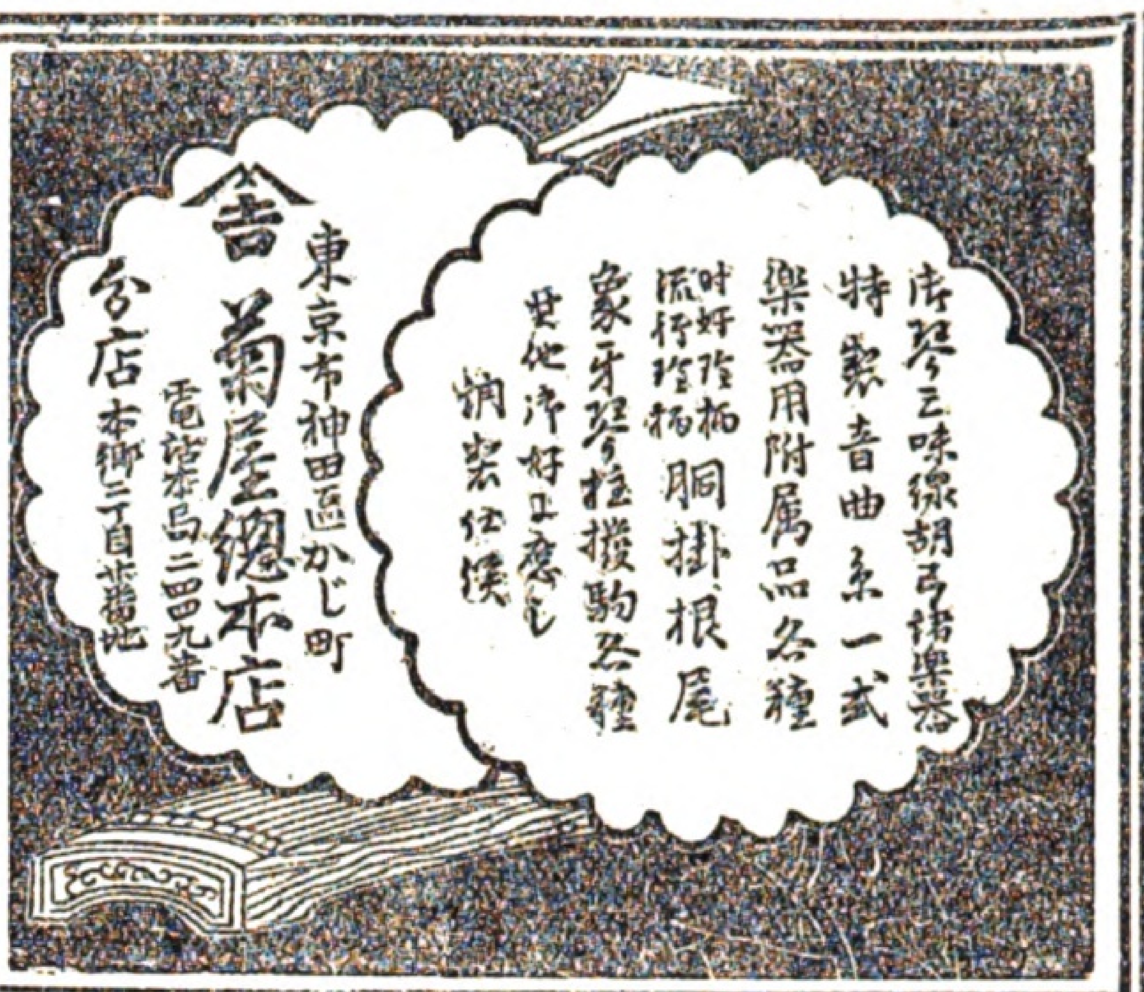
掛茶屋もて中に立ちて春の山　　山口　藤村い子

湖の長閑さの中に立ちて春の山　　京都　佐藤と子

薄霞にみなにけり春の山　　京都　渡邊くに子

吹く風に引けり春の山　　岡山　西村吟子

何一つ古ひ物なけり春の山　　三重　莊司梅子



純粹白酒壜入 甘味而濃厚 御進物適當
洋酒洋菓子食料品 御卸し小うり
壜詰 世界長 御進物用 美麗箱入

最上清酒

世界長は器械口瓶詰なれば體裁最も美麗にして用量を定めて飲用するの便宜あり

壜詰 一升入 四合入 貳合入 一合入の四種

東京日本橋區堀江町四丁目(通稱てりふり町通り)
發賣元 高橋商店
電話浪花一五六一番

めをぬぐし

見よ弦齋氏の婦人美貌術

婦人世界

新案大懸賞珍附錄 第二回

◎娘時代の生活法(村井弦齋) 是は弦齋先生多年研究の大文字

◎婦人の美貌術 姿は如何に美くすべきか 皮膚は如何に美くすべきか詳説明

◎衛生上より見たる結婚法(加藤博士)

鼻の形と鼻の病氣：佐藤ドクトル 小兒瘰癧の話(母親必讀)

「弦齋夫人季節料理談(鳥野菜御飯)」「小女欄」は弦齋先生の意匠に成る

二月一日發行 二卷一號 郵税一錢半 六冊郵税共九十錢 十二冊郵税一圓七十五錢

口繪 皇孫殿下御附人一同外八枚

賞品(金指輪 金帶止 各種の時計等)千四百 前號よりも三百を増加す

益々大好評

日本少年

新案大懸賞珍附錄 第二回

他の少年雜誌で見られぬ面白いそして大層爲になる記事や口繪が澤山あります

二月一日發行 二卷二號 郵税一錢 六冊六十錢

口繪 動物園の寫眞 珍種々

賞品(懷中時計 硯箱 鞄 繪具 書籍等)千二百 前號よりも五百を増す

東京京橋區南紺屋町十二 實業之日本社 電話新橋八一七四番

(ラクダ印)

ラクダ印麝香石鹼

(麝香石鹼) ミレ

ラクダ印麝香石鹼ハ高貴に愛すべき麝香の香料を多量に含むが故其使用せバ其香氣身体ハ元より手拭タオル、ハンカチーフ及び浴後のゆかたに至る迄うつり香いたし五日間ハ襯衣としてかほりを失なはざる効力ハ舶來品にも未だ見ざる一大特點を有ス

○定價 大形廿錢 小形拾錢

熱心勉強なる和洋小間物賣藥化粧品店にて必ず販賣せり

近來類似品有「ラクダ印」に井上に御注意

東京本石町三丁目十八番地 麝香石鹼製造元 井上太兵衛

專賣特許 安樂椅子開店

賜宮內省御買上之榮

於五二共進會進步銅牌受領

○安樂椅子は高尚優美にして座敷用に適し且つ堅牢にして折疊自在なれば携帶にも又至極便利なり

○安樂椅子を平素使用すれば自から姿勢を矯正し殊に胸部背部腰部等の諸病を未發に防ぎ 衛生上缺くべからざる用具なり

○安樂椅子は長時間の事務を執る方又は御婦人方の裁縫及び觀劇宴會等に使用すれば頗ぶる便利なり

○定價並品金一圓廿錢より以上各種 但裝飾上掛は御好次第別に代價申受く

製造發賣元 東京日本橋區兩國元柳町三八 加藤商會

特約大販賣店 四ツ谷鹽町三丁目十九番地 今井林次郎

特約大販賣店 日本橋區通リ一丁目 西川甚五郎 電話本局(九四七) 特本局(九四八)

特約大販賣店 京橋區尾張町二丁目一 今井商店 電話新橋(四八三)

特約大販賣店 橫濱市相生町五丁目八十六番地 今井林次郎

市內及地方特約販賣希望者は御來談乞ふ 市內は御一報次第多少不拘持參可仕候

○色白く艶をだす最良之化粧石鹼(大形廿錢小形拾錢)

松澤ホーサン石鹼

○到る所に販賣す(にせ物)あり松澤ホーサン石鹼と御買求を乞ふ

東京本石町四丁目 ふ光香藥種問屋 ムスク香水本舖 松澤常吉 (振替貯金四四四七番)

消化新藥

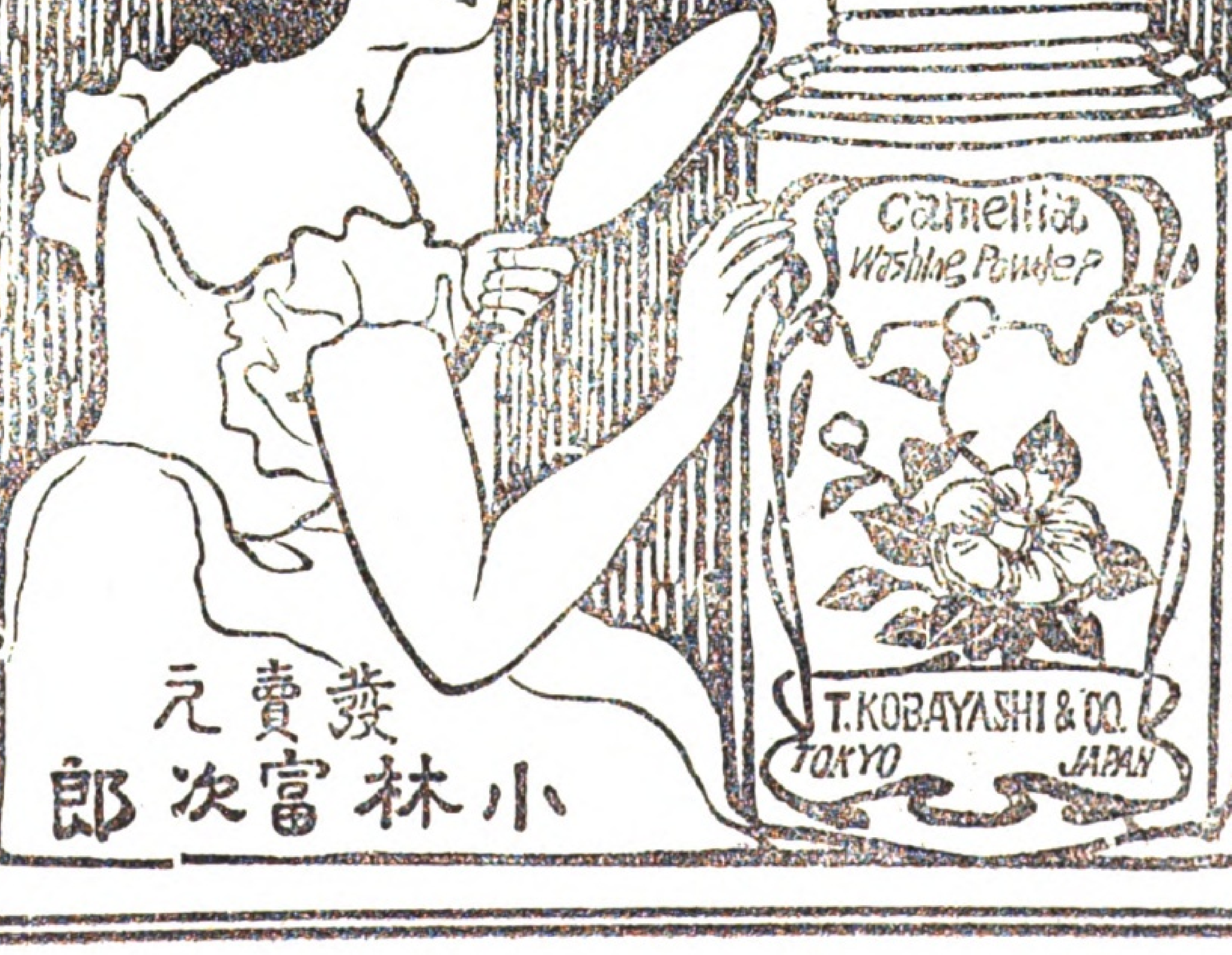
醫學博士 井上善次郎氏の實驗報告に曰く 胃腸障害は往々疾病誘發の根元となり、又疾病治癒の轉居を遲鈍ならしむ、而して胃腸障害の內、澱粉を不消化に因するもの甚だ多し。殊に米飯を常食とする本邦人に於て然りとす。之を救濟する一に完全なる澱粉消化藥あるのみ、此目的に向て、余は高峯博士の發見に係るタカヂアスターゼを使用し、好果を收め、此種の製劑中最優等のものたることを確信す。

醫學博士 栗本東明氏の實驗報告抄錄 高峯博士發見のタカヂアスターゼが唯一の澱粉消化藥として著大の効力を有するとは業に既に世の定評あり今や予は其實驗に基きタカヂアスターゼが結核患者の消化障害に對する著效を確認すると共に此種の患者に每に之れが服用を勸告する者なり 錠劑粉末各大小容器入各地藥舖にて販賣す模造品あり必ず高峯氏タカヂアスターゼと乞御指定。實驗報告集は無代進呈

カメリヤ洗粉

時代の要求により生れたるカメリヤは色白くきめを細かく艶を増し肌を滑かならしむる最新最良の洗粉なり年若き方々のみならず老年の御肌には殊に効驗著し

定價 大瓶 廿五錢 瓶入 十二錢 袋入 五錢 小袋 三錢



發賣元 小林富次郎

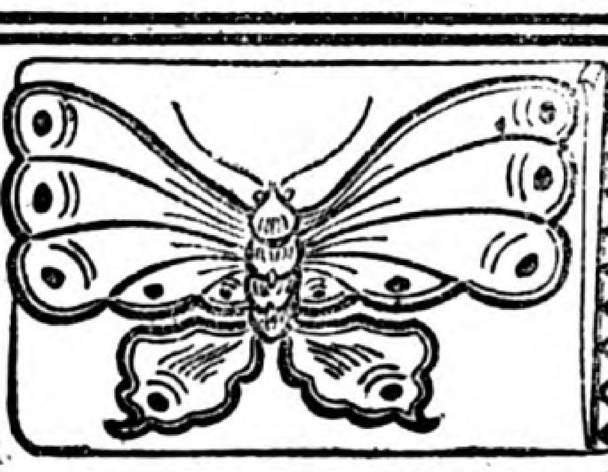
Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

優美!!!

!!!別けて御令嬢様方には此廣告を見落し給はざらんとを

意匠登録既願　佐竹新意匠　蝶冠せ紙挾み

◎金壹圓五拾錢



上等シオビに蝶の分體を刺繍し冠せをなすとにより蝶の全身を形造る頗る優秀美麗なる空前の紙挾にして價格以上の秀逸品なり　地色は、赤、紫紺、利久柳、勝色等なり　送料十錢臺灣清韓卅錢市內五錢爲替新橋局宛

郵税代用一割増代金引換は別に十錢申受く

內國博覽會各展覽會優等賞受領美術袋物商煙管金銀彫刻

東京新橋北詰　佐竹袋物店　電話新橋千卅一番

呉服物一切ハ精選直段の廉なる弊店の特色也　親切を旨とし販賣可仕候

西陣織物ハ御好御注文に應じ西陣に織立申上廉價に販賣可仕候

御染物ハ摸様物其他一切の染は京都の特色にして精巧に染上可申候

呉服切手ハ御進物用の便利を計り美麗なる裝飾にして販賣可仕候

地方御注文ハ◎御信書にて其年齢縞柄並に代價の大略を御申越被下候へば品物撰定の上迅速に御届可申上候

京都市四條通御旅町南側　だいまる市　熊谷呉服店　特電三拾五番

最上醬油　キハク印

於電路易博覽會　名譽大賞牌受領

醸造元　千葉縣野田町　茂木七郎右衛門　信略號(キハク)又(ハク)

キハク印　醬油の味がよくて調理にかなつて居ると云ふことは皆さん一般の評判ですどーか其あぢのよくてそして經濟であると云ふことを御ためし願ます

東京支店　日本橋區小網町三丁目　中野長兵衛　電話浪花五七七四

東洋一　製造大販賣　御小賣

夜具・蒲團・蚊帳・ざぶとん

◉上等並等澤山あり御好次第山の如し　電車の便あり小川町東明館前下車を乞

東京神田區表神保町　矢田商店　電話本局長二〇八

諸官省御用

◉綿質保險附◉確實大安賣◉縱覽御隨意　市內無賃配達

徳用　大俵炭　堅炭　土釜

右大俵炭は山出しのまゝにて壹俵の目方は拾貫目内外皆かます入に候賣買は目方に掛け候故至極御經濟の燃料に候間是非一度御ためし願度御用の節は電話又は端書にて被仰附候へば遠近多少を問はず無賃配達仕候

東京市神田區三崎川岸　電話本局三千貳百八番　戸塚商店

日本元祖西川洋琴

高尚なる音樂の嗜好は家庭の和樂を作る基なり

宮內省御用東京音樂學校御用

横濱市日の出町二丁目（電話八四一番）

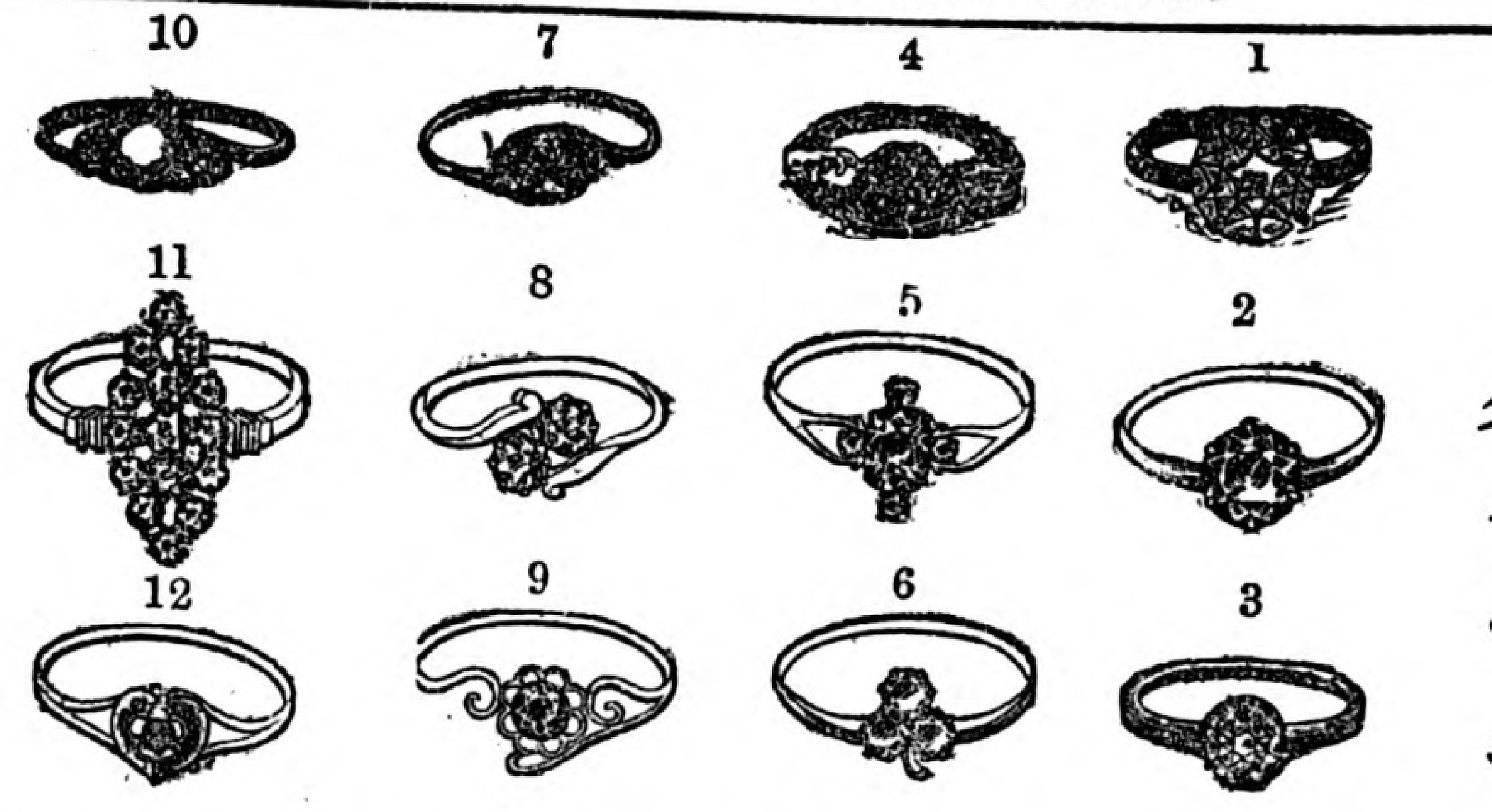
西川オルガン及ピヤノ製造所

東京販賣店　十字屋樂器店　東京市銀座三丁目

關西代理店　武内樂器店　大阪市東區順慶町四丁目

《西川洋琴の聲調は舶來品に劣らずと專門家の讃詞を得たり、定價表は御申込次第進呈す》

ダイヤモンド入指環



1	千二百圓以上	千五百圓
2	五百五十圓以上	六百圓
3	二百五十圓以上	二百八十圓
4	二百八十圓以上	三百圓
5	三百圓以上	三百五十圓
6	百二十圓以上	百四十圓
7	百六十圓以上	百八十圓
8	三百圓以上	三百五十圓
9	七十圓以上	八十圓
10	百圓以上	百三十圓
11	三百五十圓以上	四百三十圓
12	三十五圓以上	四十圓也

寶石細工品　婦人用裝飾品商　寶石美術裝飾

東京市日本橋區若松町　丸嘉　電話浪花七六八番

いかほど寶石の王なる金剛石でも品質に依て其の輝に等差あるのは甚しきものです良好でない石の装飾品は交際場裡に立つて却つて御品位を卑しめ給ふべしされば裝飾品の寶石は殊に高尚純質の特品を御撰み遊ばす必要が御座り升そこで下店彼の地へ注文せし石舊年末着致せし故左記の装飾品に調製し相成かぎり廉價に販賣致升故多少に不拘御買上願上候

尚弊店にて御買取の寶石は御不用之節他品と交換亦は代金にて御引替些少の御割引にて引受候

●男子用（指環、手釦、胸針、釣釦、鎖り等）

●婦人用（指環、簪、帯留、襟留、鎖り、ブローチ、腕輪、洋裝々身具等）

最も安全なる買物

東京買物用達合名會社　東京神田區千代田町

◉實用新案第三九五三號

保溫器（一名おひつ入）四季用

一、目的は學理を應用したる器物にして食物の保温と腐敗を防ぎ四季に用て衛生に經濟に最も有益のものとす

二、效力は嚴寒の候に（おひつ）を入れて御飯十二時間を保温す暑中は他の容器より永く腐敗變味せぬを實に八時間故に年中御飯の温き者を食するを得又鮮肉ビール類の食物を收め一片の氷を容れ置くときは冷藏器となり且つ蓄氷庫として至妙なり

三、使用法極めて簡便なり本器中に（おひつ）を容れ金巾か木綿布を以て外部に垂れる程に掩掛け其上より蓋をするなり然る時は內容の水氣を吸收し且つ外氣の浸入を防ぐの兩益あり其他便益は使用中漸次解し得らるゝ者なり

四、構造は悉く金屬製故永久使用に耐へ且つ體裁優美にして鑑賞用器具として最高尚なる者なり

（定價表）

	一升入	一升半入	二升入	三升入
漆器製（ブリツキ）	一圓	一圓六十錢	一圓八十五錢	二圓四十錢
トタン製	一圓五十錢	二圓三十錢	二圓七十錢	三圓二十錢
眞鍮製	三圓二十錢	三圓六十錢	四圓三十錢	五圓五十錢
銅製	三圓三十錢	三圓七十五錢	四圓五十錢	五圓七十五錢

製造販賣元　東京市京橋區銀座三丁目二十七　谷商店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大日本淑女學會

會員募集

本會の講義錄

▲大版三百頁優麗なる冊子
▲講義平易にして興味多し
▲各科講義の程度一定せり
▲各科皆聯絡し組織的なり
▲講師は專門女子教育家也
▲科外講師は博士學士世家
▲毎號科外講譚を附錄とす
▲純潔高雅の家庭小說あり
▲毎號雜錄四十餘頁を附す
▲會員の質問は直に解答す
▲會員の歌文を誌上に掲ぐ
▲學期毎に修業證書を與ふ
▲講義錄は貳ヶ年完結とす

御自分のお宅に居つて高等學校の全課程を講習なさらうとする本會におはいりなさい本會は文部省令に據り正則完全な女學講義錄を發行して頒ちます講義の親切丁寧な事は固より新式の教授法によつて獨習に最も便なる方法を計ります卒業は貳箇年會費も低廉で僅に都會一ヶ月の學費があれば優に全學期を終はることが出來ます

▲規則書は申込次第送ります

▲報知新聞評 高等女學校の全學科を知名の女子教育家が講述せる者也平易懇切を主とせるものなれば何人も難解の虞なかる可く各科皆聯絡を保ちて其程度を一にせるなど講述者の苦心を見るに足る且つ有益なる科外講話の外に『姫百合』と題する五十頁の附錄あり博士學士等の婦人に關する評論史傳衛生家庭等の文字を滿載し卷末更に純潔高雅の小說あり凡て天下講義錄多しと雖も實益に趣味と併せ有する事斯くの如きは稀也

東京神田南甲賀町 (電話本局二千四番)

大日本淑女學會

(ラクダ印)

麝香石鹸

ラクダ印麝香石鹸は高貴なる麝香に優ずべきスミレの香料を多量に含むが故常に使用せば其香氣身体は元より手拭タオル、ハンカチーフ及び浴後のゆかたに至る迄うつり香いたし五日間は襟部としてかほりを失なはざる効力は舶來品にも未だ見ざる一大特點を有す

〔定價大形廿錢 小形拾錢〕〔熱心勉強なる和洋小間物賣藥化粧品店にて必ず販賣せり〕

近來類似品有「ラクダ印」と仕上に御注意

東京本石町三丁目十八番地 芳香藥種問屋

井上太兵衛

御婦人持懷中時計種々店内に陳列致し置き候間御一覽被下候樣奉希候

御用の節は電話又は(ハガキ)にて御申被聞候へば直ちに店員御伺ひ可申上候

東京市神田區須田町六番地

中村時計店

電話本局一〇九〇番

志らが ぬれ羽 赤毛染

定價壹瓶金參拾錢 送料一個ヨリ十個迄拾錢

コレマデノ品トハチガイ、イタミハレル、シンパイナク、ドナタニモタヤスク染リマス

偽物あり印證に御注意

發賣元

東京日本橋セトモノ町 振替口座三五四

黒田市之助

電本二六三二

最新流行

呉服、太物、洋服
小間物、雜貨類

東京市日本橋區駿河町

三越呉服店

各女學校御用

附屬品幷に造花器械類一式

東京市日本橋區横山町一丁目十六番地

天野卯兵衛

電話(長)浪花一六四三番

營業目錄御入用なれば愛國婦人を見てと御書添へ御申越被下度候

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東京市麹町區錢瓶町（常盤橋内）

日本興業銀行

電話本局 三、三〇〇番 四一番 三七番 （特）一〇二番

資本金壹千七百五拾萬圓

營業科目

一擔保附社債に關する信託業務
一有價證券其他貴重品等の保護預
一有價證券の賣買元利金の支拂及び取立
一地方債、社債、株式等の發行募集事務
一各種の信託事務
一國債證券、地方債證券、社債券、株券の擔保貸付及手形の割引
一國債證券、地方債證券、社債券の募集又は引受
一法律規定に依り設定したる財團を抵當とする貸付
一定期預金、當座預金、特別當座預金

東京市日本橋區通一丁目

合名會社 森村銀行

電話（特）本局六七三番
電話本局四九八番

定期預金 六ヶ月以上 年五分五厘
當座預金 百圓に付日歩 八厘
特別當座預金 同日歩 壹錢壹厘

東京市日本橋區小舟町三丁目

株式會社 第三銀行

電話浪花四四二番 浪花四五一番

預金利子
定期預金 六ヶ月以上 年五分
當座預金 百圓に付日歩 八厘
別口當座 同日歩 壹錢
全國送金無手數料
其他銀行一般の業務を便宜取扱可申候

天下一品

最上醬油

釀造元 千葉縣野田町 茂木佐平治

賣捌所は各地とも有名なる酒醬油店に有之候

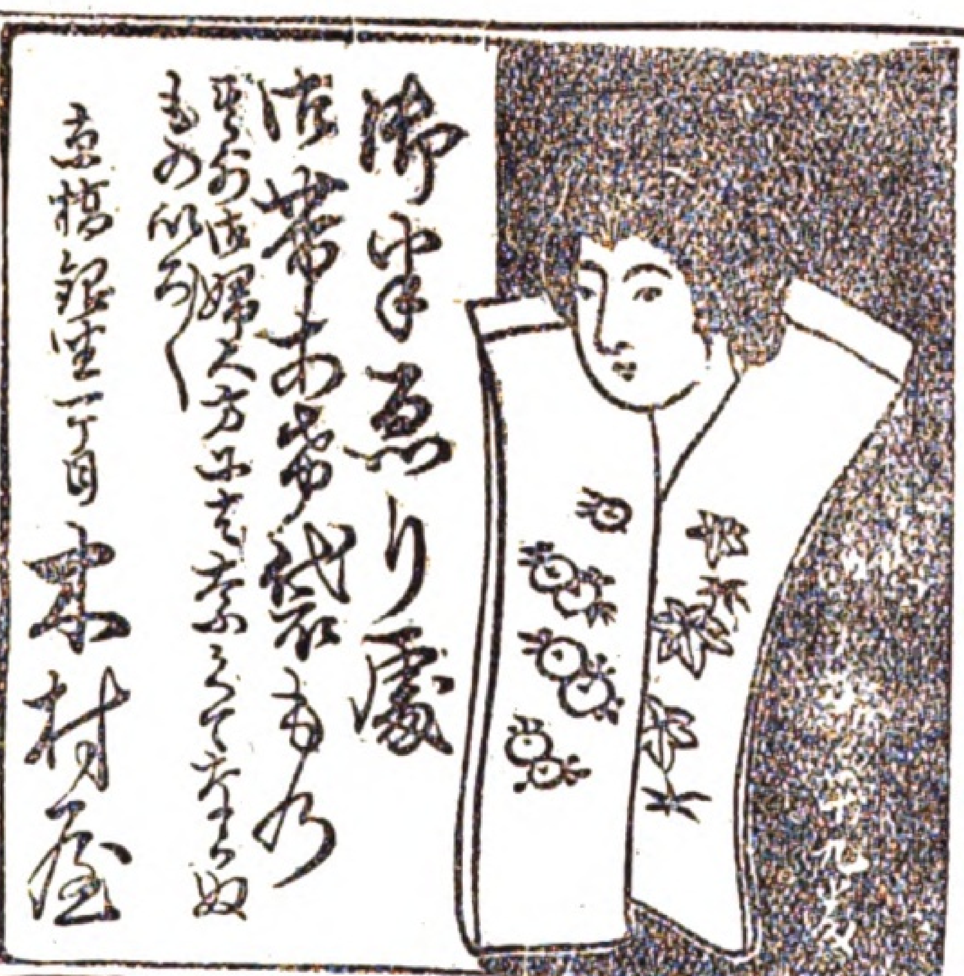
スコット乳劑

咽喉諸症肺炎其他貧血病ニ着大ノ効驗アり早ク試賜ヘ

説明書ハ横濱郵便局私書函第五十八號スコット乳劑部へ御申込アレバ無代價ニテ進呈ス

代理店 横濱市山下町廿八番館

米國貿易商會



銀牌受領

宮内省御買上ノ光榮ヲ得タリ

香油パール

發賣元 東京

袴乃親王

卸部 美濃磯本店 東京日本橋區長谷川町 電話浪花二八五九番

小賣部
美濃磯本郷支店 本郷區本郷五丁目 電話下谷一四一五番
美濃磯淺草支店 淺草區諏訪町
美濃磯佐内町支店 日本橋區佐内町
美濃磯神田支店 神田區小川町
美濃磯支店 深川高ばし際
小田商店 芝區新櫻田町
伊澤商店 牛込區神樂町一丁目
伊澤支店 四谷區傳馬町一丁目

胃病良藥 太田胃散

小兒病診療

醫學士 内田愼太郎

淺草區福井町貳番地 宅診午前 往診午後 ●電話下谷七一八番

院長醫學士 鳥山南壽次郎

鳥山内科院

午前診察 午後往診 京橋區鎗屋町十一番地 電話新橋千七百四十六番

小兒科

乳兒ノ疾患及ビ育兒法 小兒皮膚病

拙者儀久ク獨逸伯林大學ニ於テ斯學ヲ專攻シ歸朝後毎日診療ニ從事ス

ドクトル メヂチーネ 長井岩雄

日本橋區數寄屋町一（電本百八十）

◉婦人病專門

院長 櫻井克己

櫻井醫院

芝明舟町十九虎門外宮樣前 電話新橋三三二四

◉水原産科婦人病院

○所在神田區猿樂町十二番地（電話本局千八〇九番）○外來診察午前中○入院往診隨時○同院に私立産婆學校の設あり

内科一般

午前宅診 午後往診 板垣亭

東京神田區美土代町三丁目十七番地 電話本局貳千九百七十番

眼科專門

診察時間 午前七時ヨリ十二時迄 午後三時ヨリ五時迄

神田區連雀町十八番地（郵便局前）

ドクトル 宇良田唯子

▲毎月第一日は藥價診料共無料

第廿六回 第三回 産科婦人科學講習 高等産婦科新學期

東京日本橋區濱町三丁目七番地 楠田病院

婦人科産科榊病院

院長 醫學博士 榊順次郎
副院長 醫學士 久保徳太郎

東京麹町三番町卅三（電話番町三九五）

内科小兒科 特に呼吸器病

ドクトル 川瀬元九郎

麹町はやぶさ町二十八番地 電話番町八二二番

峰内科醫院

神田區西今川町三番地（電話本局三〇一九）

内科病特に腦脊髓神經疾患

院長 ドクトル メヂチーネ 峰秀世

男女 花柳病 ○肛門病

梅毒 痳病 黄疸 下疳 痔疾 注射療法

午前 夜間

杉田醫院

牛込横寺町二八 郵便局上左横丁

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人廣告取扱

京橋區數寄屋橋外 弘報堂
神田三河町 博報堂
京橋區南紺屋町 一星堂
京橋區南鍋町 秀逸社
日本橋區上槇町 萬年社
日本橋區箱崎町 春風舍
京橋區宗十郎町 正路喜舍
京橋區日吉町 帝國通信社
同區彌左衞門町 京華社支店
同區南鍋町 廣告社

洗濯用ワツセル

◎ワツセルは油じみ油あか如何なる汚れても揉ずに必ず落る石鹸曹達の如く布を損傷せず斯色を褪さず費用と手數を省く經濟上有利なる日用品であります

◎用法は湯一升に二匁(小杯へ半分餘)の割合にて溶解し洗濯物は凡二時間浸し揉ずに置き後湯又は水にて洗へば自然に脱ますシャツの如きは(拾弐匁)入一本にて弐百枚は必ず洗へます御婦人の髪は一匁五分を一升の湯に溶解してからもじを洗ふ用に揉ずに洗べし左れば玉子で洗た樣になります又食器家庭道具を拭き掃除にも有効です

定價 拾弐匁入 金拾五錢 六拾匁入 金八拾錢 袋入二錢

化粧用洗粉ワツセル

●此洗粉ワツセルは當時歐米各國貴族社會に流行する芳香類を加味し製造せしものなれば朝夕御使用の方は香氣馥郁として肌持ち々す又おしろいしたを用ひずして御化粧が出來ると妙なり

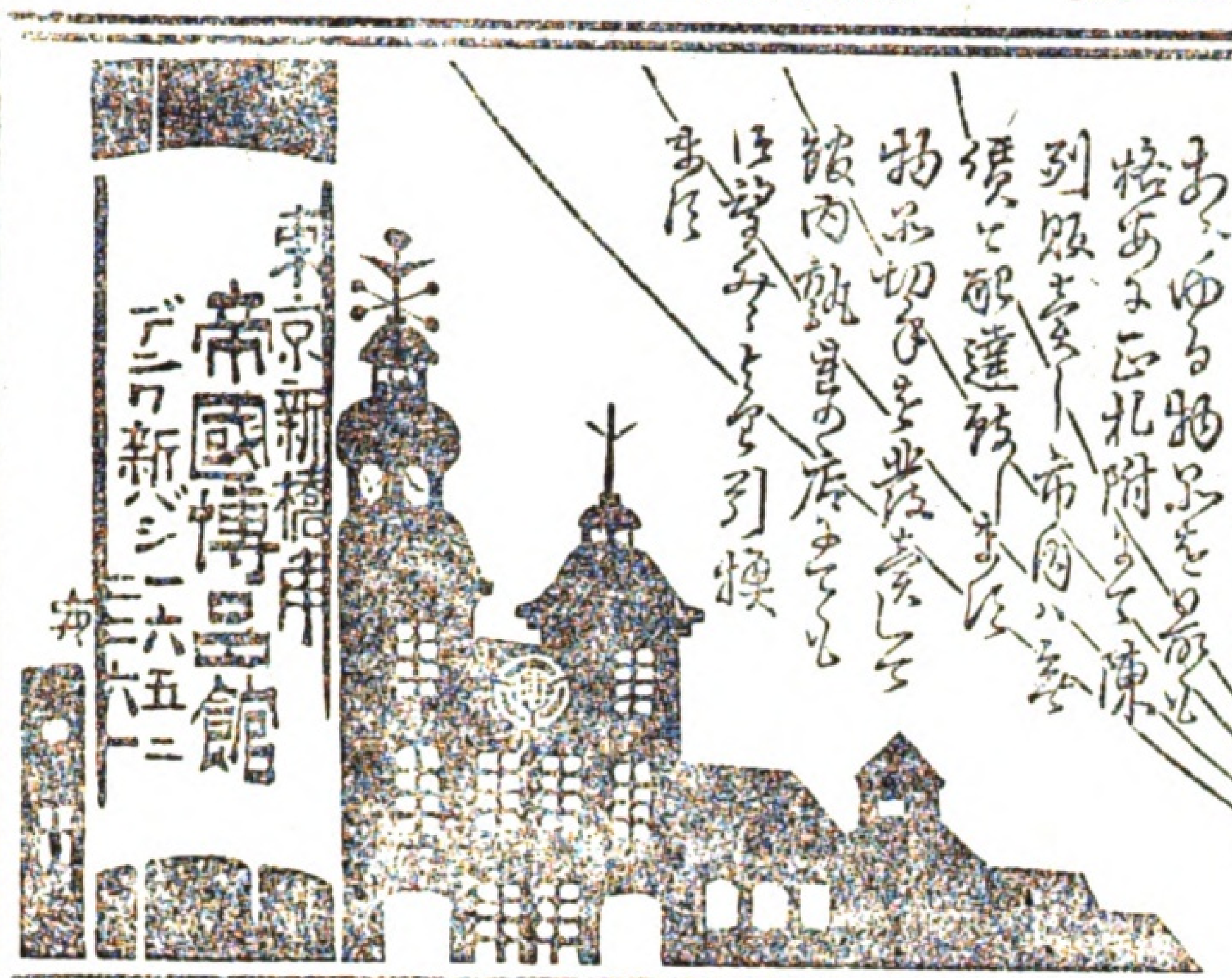
定價最上金七拾五錢 金貳拾錢 普通 五拾錢 六錢 參拾錢 三錢 拾七錢

東京市京橋區三十間堀三丁目電話新橋一七一二

洗濯用ワツセル 化粧用洗ひこ香ワツセル 日本一手販賣元製造元

三友商會

日本第一の大勸業場



農村の幸福法

愛國婦人記者 手島益雄氏著

全一冊 定價金三十錢 郵税金四錢

本書雜誌評

▲明治の家庭 題して農村の幸福法とあるも。寧ろ家庭の幸福法とも云ひたい位いである。著者は愛國婦人の主筆で、家庭の研究に富んで居る人であるから、家庭、敎育、宗敎、自治、産業、公共、慈善、衞生、會合、娯樂、家庭層を作れ竈所の設備は如何にすべきか、如何にせば貧乏になれるかの各項とも其趣味を含んで居るのですが、文章も平易の内に風味がありますから面白く樂しく全篇一呼吸に讀めます。

▲帝國畫報 その名の示すが如く、自治團體たる農村の幸福は、如何にして增進すべきものなるかと云へることに就き、先づ上編第一章家庭の標題下に、如何にして結婚すべきか、如何なる妻を迎ふべきか、如何なる夫を持つべきか等の數項を論じ第二章以下に於て、敎育、宗敎、自治、産業、公共、慈善、衞生、會合、娯樂等の諸項を評論し、更に下編に於ては、家庭層を作れ、竈所の設備は如何にすべきか、如何にせば貧乏になれるかの三項を述べたるもの、農家の家憲ともすべきものを、文學的に叙せるものなれば、濁酒一杯の費を節しても、必ず一讀を要すべきもの、尙詳細は次卷以下に之を述ぶるの機あるべし。

本書雜誌評

▲婦女新聞 鄙を如何にして結婚すべきかの問題に起して汲む水は盡きず反古籠に糸屑に終る上下貳編百八十五頁家庭敎育宗敎自治産業公共慈善衞生會合娯樂の各方面に縱横論陣を張り、村芝居を始む可し町村に音樂家を養生す可し角力を盛に行へと主張し盆踊を盛に行へと喝破せる點少しく突飛の感なきにあらざれ共其の論據の確實なる大に吾人の注意を惹けり殊に宗敎を論じて寺院廢合に言及したるは予が數次言論に訴へ勧告發布を見るに至りし丈多くの趣味を以て讀了せり、去れど一村に一敎義を奉ぜしめんとの希望は餘りに理想的にして現實を離れたるものと思考す、著者の最も力を注ぎたる點は上編よりも下編にあるべく『其の如何にせば貧乏になれるか』の如きは蘊し眞を穿つて餘蘊なしと言ふも過言ならず、文章平易毫も難解の句を見ず其の用意の周到にして懇切なる確に讀者に一讀の價値あるものとして玆に紹介す價亦廉なり

發行所 新公論社 東京本郷區東片町百十一番地(振替貯金口座三二四〇)

取次所 愛國婦人發行所 東京麹町愛國婦人會内(電話番五二一〇)

毛糸多種

歐米各國御婦人用品卒先輸入

御婦人裝飾品多數

西洋諸小間物一式

東京市京橋區銀座三丁目

伊勢與

三枝小賣店

話新橋三九二七番

補血良劑

ヱノポール無臭肝油

補血劑として稀世の卓効を有する新藥にして僅かも惡臭を存せざるのみならず飲用に適すに香氣を有するを以て婦女子も尙喜びて服する事を得べし

東京日本橋區本町四丁目

合名會社島久商店

(電話本局特四九一一 電話本局三〇一八)

ムスク香水

(大瓶壹圓●中瓶六拾五錢●小瓶二十五錢)

○本品は芳香の永く保つ點に於て頗る高評なり

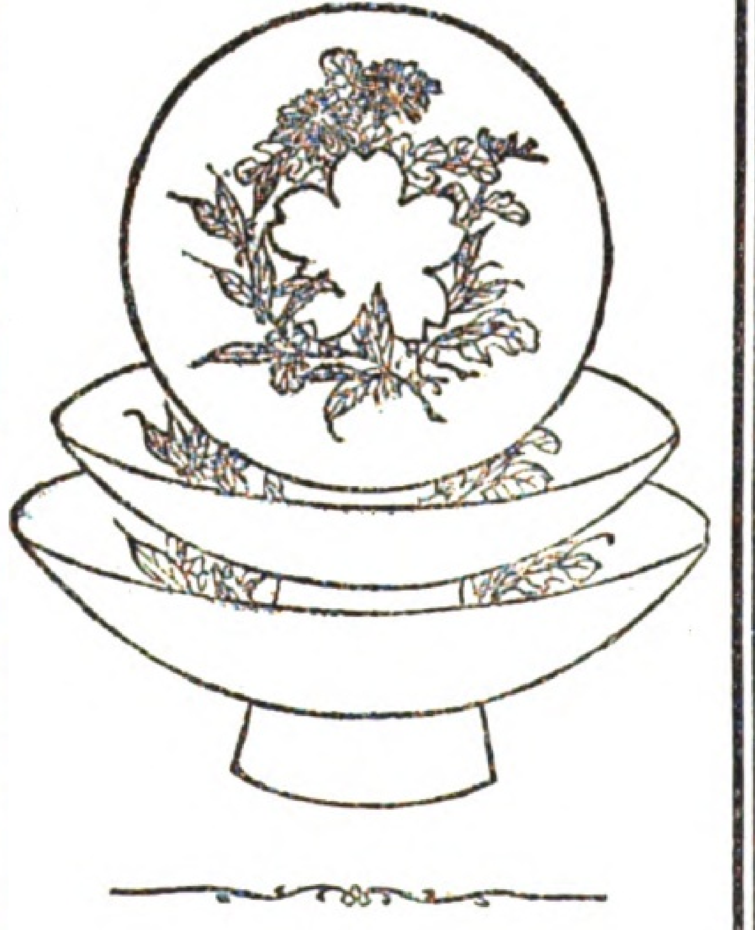
東京日本橋區本石町四丁目

ホーサン石鹸本舗

本舗 松澤常吉

(電話本局...)

金銀盃類



貴金屬寶石美術品袋物一切何品に依らず迅速と廉價を旨とし誠實に新調又は改作の御用相勤め可申候間何卒一層の御引立を以て多少に不拘御下命被下度奉願上候

宮内省御用達 玉寶堂

電話下谷(特九六〇番 二二四四番)

都足袋粋乃友

○都足袋ハ曩ニ農商務省ニ出願シテ登録商標専用ヲ得タル物ナリ

○都足袋ハ外觀優雅ニシテ現ニ都人粋士ノ歡迎ヲ受ケツヽアリ

○都足袋ハ踵ニ縫目ナク衣服ノ裾ヲ傷フヿナシ

○都足袋ハ製作ニ至大ノ注意ヲ拂ヘリ故ニ具合適良ニシテ縫目ノ破綻スル虞ナシ

○都足袋ハ材料最モ優逸ニシテ經濟上尠ナカラザル効力ヲ有セリ

三重足袋君の益

○三重足袋君カ益ハ甲三重底三重ナルヲ以テ優ニ群ヲ抜クノ耐久力ヲ有ス

○三重足袋君カ益ハ甲三重底三重ナルヲ以テ冬季ハ寒ムサヲ防グ効力ヲ有ス

○三重足袋君カ益ハ甲三重底三重ナルヲ以テ脂肪ノ滲出ヲ遮ギリ體溫ヲ保ツノ効力アリ

龜屋

東京日本橋室町三丁目 龜屋足袋店

電話本局一七一二番 宮内清兵衞 (略電信カメヤ又カ)

明治四十年二月廿日發行(毎月五日二十日二回)(定價金三錢 一ヶ月六錢 一ヶ年金六拾錢)(郵税不要) 發行兼印刷人 山澤俊夫 編輯人 手島益雄 發行所 東京麹町區飯田町 愛國婦人發行所 印刷所 東京牛込區市谷加賀町 秀英舍工場

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治四十年一月廿日發行（毎月二回五日廿日）
明治三十五年三月二十七日（第三種郵便物認可）

故奥村五百子刀自と其筆蹟

發行兼印刷人　山澤俊夫
編輯人　手島益雄
發行所　愛國婦人會内愛國婦人發行所
印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舎第一工場

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN